

男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

2022年度(令和4年度)

新 発 田 市

目 次

I 調査の概要	・・・・・・・・・・	1
II 調査の結果と分析		
【問 1】	「男女共同参画社会」ということばの認知度について	・・・・・・・・・・ 2
【問 2】	男女共同参画に関する法律や計画等の認知度について	・・・・・・・・・・ 3
【問 3】	男女共同参画に関連する名称やことばの認知度について	・・・・・・・・・・ 6
【問 4-1】	「男は仕事、女は家庭」という考え方について	・・・・・・・・・・ 11
【問 4-2】	「賛成」、「どちらかといえば賛成」の理由について	・・・・・・・・・・ 12
【問 4-3】	「反対」、「どちらかといえば反対」の理由について	・・・・・・・・・・ 13
【問 5】	「男らしさ、女らしさよりもその人らしさを尊重する」という 考えについて	・・・・・・・・・・ 14
【問 6】	社会の中で男女平等になっていないと思うところについて	・・・・・・・・・・ 15
【問 7】	政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やす時に 障壁（さまたげ）となるものについて	・・・・・・・・・・ 16
【問 8】	「仕事」や「個人や家庭の生活」について（希望）	・・・・・・・・・・ 17
【問 9】	「仕事」や「個人や家庭の生活」について（現状）	・・・・・・・・・・ 18
【問 10】	男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に 参加していくために必要だと思うこと	・・・・・・・・・・ 19
【問 11-1】	セクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか	・・・・・・・・・・ 20
【問 11-2】	セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、誰かに相談しまし たか	・・・・・・・・・・ 21
【問 11-3】	相談しなかった理由について	・・・・・・・・・・ 22
【問 11-4】	身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいますか	・・・・・・・・・・ 23
【問 12-1】	ドメスティック・バイオレンスを受けたことがありますか	・・・・・・・・・・ 24
【問 12-2】	ドメスティック・バイオレンスを受けたとき、誰かに相談しま したか	・・・・・・・・・・ 25
【問 12-3】	相談しなかった理由について	・・・・・・・・・・ 26
【問 12-4】	身近にドメスティック・バイオレンスを受けた人がいますか	・・・・・・・・・・ 27
【問 13-1】	今後、女性の社会参画を進めていくことが必要だと思いますか	・・・・・・・・・・ 28
【問 13-2】	女性の社会参画を進めていくうえで必要と思うもの	・・・・・・・・・・ 29
III 調査のまとめ	・・・・・・・・・・	30
IV 自由記載欄の意見など	・・・・・・・・・・	36

I 調査の概要

1 調査の目的

新発田市は、1998年(平成10年)3月に、「新発田市女性行動計画」を策定し、その後「しばた男女共同参画推進プラン」に改訂、改称した。現在は、「第4次しばた男女共同参画推進プラン」及び2015年(平成27年)に制定した「男女共同参画推進条例」に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた取組を行っている。

この市民意識調査は、男女共同参画に関する意識を把握し、今後の男女共同参画社会の形成と推進に役立てるための基礎資料を得るために実施した。

2 調査の方法等

(1) 調査の時期

2022年(令和4年)6月1日現在において実施した。

(2) 調査票の種類

1997年(平成9年)、2002年(平成14年)、2011年(平成23年)、2017年(平成29年)実施の「市民意識調査」及び他市の意識調査等を参考に設問し、自由記述欄を加えて実施した。

(3) 調査の対象と方法

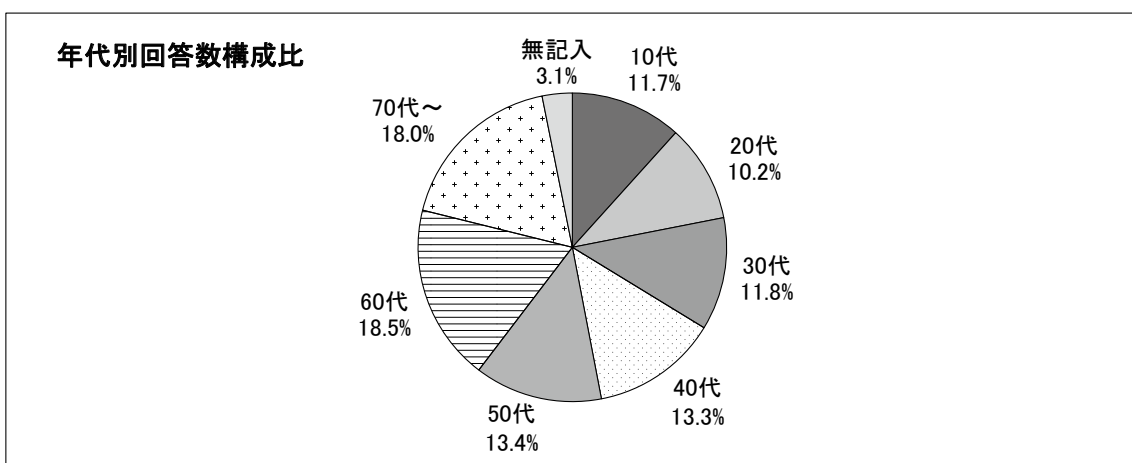
新発田市住民基本台帳から、15歳以上の2,100人を無作為抽出し(15歳以上の10代から70代以上までの7階層から、1階層300人を基準とし、男女別、地域別は、人口構成比で按分のうえ、無作為抽出した。)、調査票は、対象者に郵送し、郵送によって回収する方法で行った。

3 調査抽出数、有効回答数、回収率の比較表

抽出数 (人)	回答者 (人)	回収率 (%)	男 (%)	女 (%)	性別無記入 (%)
2,100 (男 1,045) (女 1,055)	762 (男 296) (女 317) (無記入 149)	36.3%	28.3%	30.0%	-

4 年代・男女構成比

区分	全体(人)	全体(%)	男性(人)	男性(%)	女性(人)	女性(%)	性別無記入(人)	性別無記入(%)	抽出数(人)	回収率(%)
回答者数	762	100.0	296	100.0	317	100.0	149	100.0	2,100	36.3
10代	89	11.7	28	9.5	47	14.8	14	9.4	300	29.7
20代	78	10.2	34	11.5	34	10.7	10	6.7	300	26.0
30代	90	11.8	33	11.1	36	11.4	21	14.1	300	30.0
40代	101	13.3	41	13.9	47	14.8	13	8.7	300	33.7
50代	102	13.4	38	12.8	40	12.6	24	16.1	300	34.0
60代	141	18.5	69	23.3	54	17.0	18	12.1	300	47.0
70代～	137	18.0	53	17.9	59	18.6	25	16.8	300	45.7
無記入	24	3.1	-	-	-	-	24	16.1	-	-



Ⅱ 調査の結果と分析

【問1】男女共同参画社会ということばを知っていますか。

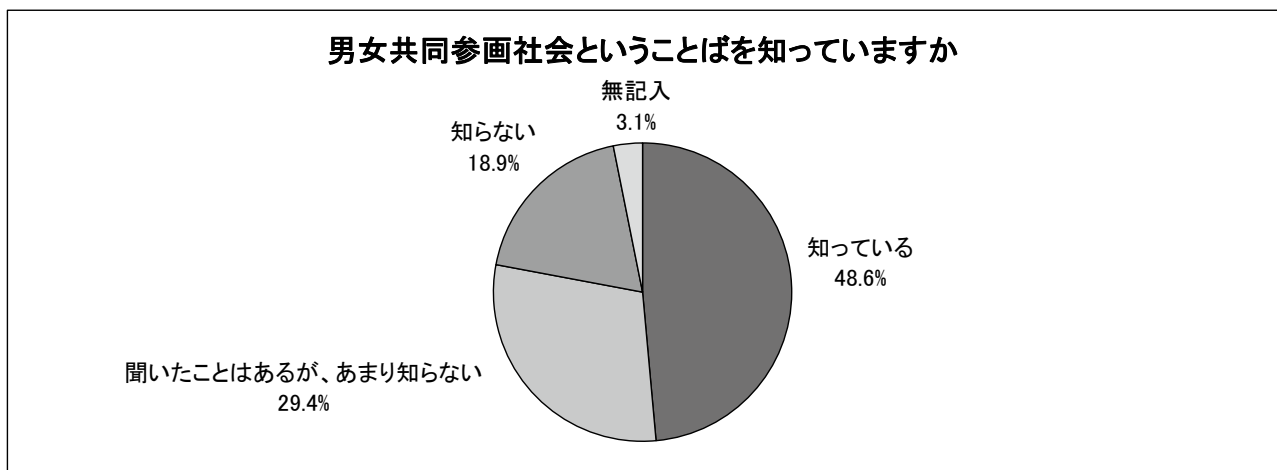
単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	知っている	48.6	46.5	24.2	48.6
2	聞いたことはあるが、あまり知らない	29.4	26.9	35.2	35.2
3	知らない	18.9	22.5	29.0	39.3
4	無記入	3.1	4.2	11.6	12.1

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	48.6	54.7	48.6	36.2	67.4	73.1	43.3	43.6	38.2	51.1	37.2	33.3
2	29.4	27.0	30.6	31.5	15.7	17.9	33.3	37.6	32.4	29.1	36.5	16.7
3	18.9	15.9	19.2	24.2	15.7	9.0	21.1	18.8	28.4	17.7	19.0	20.8
4	3.1	2.4	1.6	8.1	1.1		2.2		1.0	2.1	7.3	29.2



<説明>

○「知っている」と「聞いたことはあるが、あまり知らない」の合計は78%となっており、前回(2017年)調査(以下「前回調査」という)と比較して4.6ポイント増加している。

○男女別では、「知っている」と「聞いたことはあるが、あまり知らない」の合計は男性が81.7%、女性が79.2%であり、男性が女性より2.5ポイント高くなっている。

○年代別の回答では、「知っている」が10代で67.4%、20代で73.1%と他の年代よりも高くなっている。

<分析>

○前回調査と比べて、「知っている」と回答した人は微増であるが、「聞いたことはあるが、あまり知らない」も含めた認知度は4.6ポイント増加しており、「男女共同参画社会」という言葉自体は浸透してきている。

【問2】 次の法律や計画等を知っていますか。

① 男女共同参画社会基本法

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	内容まで知っている	19.7	20.2	9.9	8.9
2	聞いたことがある	44.6	44.7	41.8	38.8
3	知らない	30.1	31.2	35.7	44.0
4	無記入	5.6	3.9	12.6	8.3

(男女別・世代別) 単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	19.7	23.0	20.2	12.1	42.7	38.5	15.6	10.9	9.8	21.3	10.2	12.5
2	44.6	47.0	43.5	42.3	38.2	47.4	41.1	54.5	47.1	42.6	45.3	29.2
3	30.1	26.0	31.9	34.2	18.0	14.1	40.0	32.7	40.2	32.6	28.5	29.2
4	5.6	4.1	4.4	11.4	1.1		3.3	2.0	2.9	3.5	16.1	29.2

<解説>

○「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は64.3%となっており、前回調査と比較して0.6ポイント減少している。

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が70%、女性が63.7%で、男性が女性より6.3ポイント高くなっている。

○年代別では、「内容まで知っている」が10代で42.7%、20代で38.5%と、他の年代より高くなっている。

② 男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	内容まで知っている	41.2	39.9	36.5	37.2
2	聞いたことがある	40.0	41.5	44.2	43.7
3	知らない	14.0	15.0	8.5	11.1
4	無記入	4.7	3.7	10.8	8.0

(男女別・世代別) 単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	41.2	42.9	42.9	34.2	57.3	51.3	36.7	42.6	44.1	45.4	21.9	33.3
2	40.0	41.9	39.4	37.6	30.3	35.9	45.6	44.6	39.2	41.1	43.8	25.0
3	14.0	12.2	14.5	16.8	11.2	12.8	14.4	11.9	15.7	10.6	20.4	12.5
4	4.7	3.0	3.2	11.4	1.1		3.3	1.0	1.0	2.8	13.9	29.2

<解説>

○「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は81.2%となっており、前回調査と比較して0.2ポイント減少している。

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が84.8%、女性が82.3%で、男性が女性より2.5ポイント高くなっている。

○年代別では、10代から60代までの各年代で「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が8割を超えている。

③ 育児・介護休業法(育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	内容まで知っている	31.8	31.4	36.3	36.9
2	聞いたことがある	44.9	47.2	41.9	45.7
3	知らない	18.8	17.5	9.2	8.5
4	無記入	4.6	3.8	12.6	8.9

(男女別・世代別) 単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	31.8	28.4	39.7	21.5	29.2	34.6	27.8	34.7	36.3	37.6	24.8	20.8
2	44.9	49.0	39.4	48.3	36.0	47.4	51.1	49.5	49.0	41.1	45.3	29.2
3	18.8	18.9	18.3	19.5	33.7	17.9	17.8	12.9	13.7	18.4	18.2	20.8
4	4.6	3.7	2.5	10.7	1.1		3.3	3.0	1.0	2.8	11.7	29.2

<解説>

○「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は、76.7%となっており、前回調査と比較して1.9ポイント減少している。

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が77.4%、女性が79.1%で、女性は男性より1.7ポイント高くなっている。

○年代別では、20代、40代、50代で「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が8割を超えている。

④DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人		
1	内容まで知っている	23.0	29.8		
2	聞いたことがある	50.0	50.1		
3	知らない	22.0	16.3		
4	無記入	5.0	3.8		

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	23.0	22.0	25.9	18.8	23.6	24.4	21.1	27.7	21.6	29.8	15.3	12.5
2	50.0	53.4	47.0	49.7	37.1	53.8	55.6	54.5	65.7	49.6	40.9	33.3
3	22.0	21.3	23.3	20.8	38.2	21.8	21.1	15.8	11.8	17.7	28.5	25.0
4	5.0	3.4	3.8	10.7	1.1		2.2	2.0	1.0	2.8	15.3	29.2

<解説>

○「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は73%となっており、前回調査と比較して、6.9ポイント減少している。

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が75.4%、女性が72.9%で、男性が女性より2.5ポイント高くなっている。

○年代別では、40代、50代で「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が8割を超えている。

⑤女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人		
1	内容まで知っている	11.4	9.1		
2	聞いたことがある	42.4	43.3		
3	知らない	40.8	43.8		
4	無記入	5.4	3.8		

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	11.4	13.9	11.0	7.4	16.9	17.9	10.0	15.8	8.8	10.6	5.8	4.2
2	42.4	45.3	41.0	39.6	36.0	50.0	50.0	43.6	43.1	47.5	33.6	25.0
3	40.8	37.2	43.8	41.6	46.1	32.1	36.7	38.6	47.1	38.3	44.5	41.7
4	5.4	3.7	4.1	11.4	1.1		3.3	2.0	1.0	3.5	16.1	29.2

<解説>

○「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は53.8%となっており、前回調査と比較して1.4ポイント増加している。

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が59.2%、女性が52%で男性が女性より7.2ポイント高くなっている。

○年代別では、20代、30代は「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が6割を超えている。

○全体的に見て、「内容まで知っている」人の割合が2割以下と低い傾向になっている。

⑥新発田市男女共同参画推進条例

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人		
1	内容まで知っている	2.2	3.9		
2	聞いたことがある	23.4	22.8		
3	知らない	69.2	70.2		
4	無記入	5.2	3.1		

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	2.2	2.7	2.2	1.3	2.2	5.1		2.0	2.9	2.8	1.5	
2	23.4	30.1	20.8	15.4	19.1	23.1	16.7	25.7	21.6	29.8	26.3	8.3
3	69.2	63.5	73.5	71.1	77.5	71.8	80.0	69.3	74.5	63.8	57.7	62.5
4	5.2	3.7	3.5	12.1	1.1		3.3	3.0	1.0	3.5	14.6	29.2

<解説>

○「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は25.6%となっており、前回調査と比較して、1.1ポイント減少している。

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が32.8%、女性が23%で、男性が女性より9.8ポイント高くなっている。

○年代別では、60代で「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が最も高いが、3割程度にとどまっている。

○各世代において「内容まで知っている」は1割未満となっており、認知度も低い傾向となっている。

⑦しばた男女共同参画推進プラン

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人		
1	内容まで知っている	1.4	3.2		
2	聞いたことがある	20.2	19.6		
3	知らない	73.2	70.9		
4	無記入	5.1	6.3		

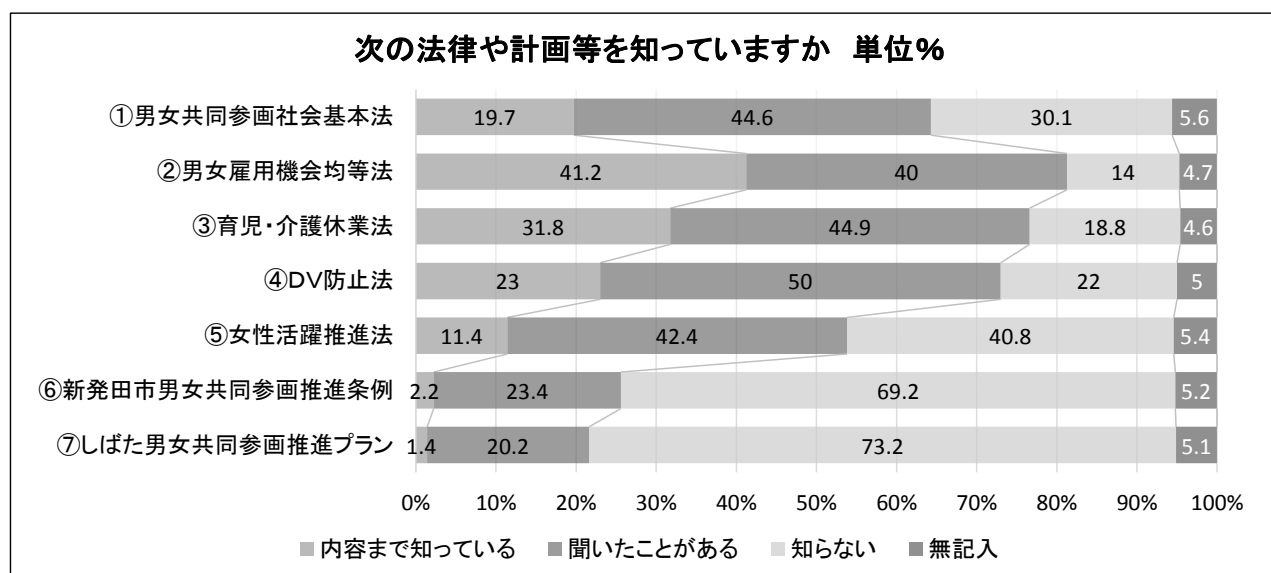
(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	1.4	1.7	1.3	1.3	2.2	1.3		1.0	2.9	2.1	0.7	
2	20.2	25.0	18.9	13.4	15.7	23.1	12.2	22.8	19.6	25.5	21.9	8.3
3	73.2	69.9	76.3	73.2	80.9	75.6	84.4	73.3	76.5	69.5	62.8	62.5
4	5.1	3.4	3.5	12.1	1.1		3.3	3.0	1.0	2.8	14.6	29.2

<解説>

- 「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は21.6%となっており、前回調査と比較して、1.2ポイント減少している。
- 男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が26.7%、女性が20.2%で、男性が女性より6.5ポイント高くなっている。
- 年代別では、60代で「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が最も高いが、3割に満たない割合となっている。
- 各年代において「内容まで知っている」は1割に満たない割合となっており、認知度も3割未満と低い傾向となっている。



<分析>①～⑦の法律・制度などの認知度について

- 認知度が高いものは、②男女雇用機会均等法81.2%③育児・介護休業法76.7%④DV防止法73%の順となっている。
- ニュースや新聞等で取り上げられることが多いものは、市民の認知度も高いが、聞きすぎる機会が少ないものは、認知度が低い傾向となっている。
- ⑥新発田市男女共同参画推進条例、⑦しばた男女共同参画推進プランは「知らない」の割合が7割強となっており、他の法律・制度よりも認知度が低い状況となっているため、周知を強化していく必要がある。
- 「育児・介護休業法」は、20代～50代で認知度が高く、自身のライフステージにおいて育児や介護と関わりの高い世代において認知度が高い傾向が見られる。

【問3】次の名称やことばについて知っていますか。

①ジェンダー(社会的、文化的につくりだされた性差)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	内容まで知っている	47.8	14.2	7.9	6.6
2	聞いたことがある	34.6	27.5	19.4	25.9
3	知らない	12.9	53.4	56.5	56.7
4	無記入	4.7	4.9	16.2	10.8

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	47.8	42.6	57.4	37.6	70.8	73.1	52.2	56.4	49.0	44.7	16.8	16.7
2	34.6	40.2	30.3	32.9	22.5	20.5	40.0	37.6	40.2	36.9	40.1	25.0
3	12.9	13.2	11.0	16.1	6.7	6.4	5.6	5.0	8.8	14.2	31.4	20.8
4	4.7	4.1	1.3	13.4			2.2	1.0	2.0	4.3	11.7	37.5

<解説>

- 「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は82.4%となっており、前回調査と比較して、40.7ポイント増加している。
- 男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が82.8%、女性が87.7%で、女性が男性より4.9ポイント高くなっている。
- 年代別では、10代から40代で「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が9割以上となっている。

②ポジティブ・アクション(積極的格差是正措置)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	内容まで知っている	7.1	3.4	3.4	1.4
2	聞いたことがある	25.6	20.2	18.4	20.9
3	知らない	62.2	71.3	61.8	67.1
4	無記入	5.1	5.0	16.4	10.5

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	7.1	7.8	6.9	6.0	14.6	6.4	4.4	7.9	6.9	7.1	5.1	
2	25.6	28.0	25.2	21.5	22.5	28.2	22.2	23.8	24.5	34.8	23.4	12.5
3	62.2	59.5	66.2	59.1	62.9	65.4	70.0	67.3	66.7	53.9	58.4	50.0
4	5.1	4.7	1.6	13.4			3.3	1.0	2.0	4.3	13.1	37.5

<解説>

- 「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は、32.7%となっており、前回調査と比較して、9.1ポイント増加している。
- 男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が35.8%、女性が32.1%で、男性が女性より3.7ポイント高くなっている。
- 年代別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が最も高いのは60代で41.9%となっている。
- 各年代において、認知度は3~4割程度と低い傾向となっている。

③ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活との調和)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	内容まで知っている	33.1	18.2	12.4	
2	聞いたことがある	27.6	37.7	35.7	
3	知らない	34.1	39.5	37.6	
4	無記入	5.2	4.7	14.3	

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	33.1	32.8	37.5	24.2	57.3	60.3	33.3	43.6	26.5	22.7	13.1	12.5
2	27.6	26.4	28.7	27.5	22.5	21.8	25.6	22.8	35.3	35.5	25.5	25.0
3	34.1	36.5	31.5	34.9	20.2	17.9	38.9	32.7	34.3	38.3	47.4	25.0
4	5.2	4.4	2.2	13.4			2.2	1.0	3.9	3.5	13.9	37.5

<解説>

- 「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は、60.7%となっており、前回調査と比較して、4.8ポイント増加している。
- 男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が59.2%、女性が66.2%で、女性が男性より7ポイント高くなっている。
- 年代別では、10代と20代で「内容まで知っている」と「聞いたことがある」が約8割となっており、若い世代ほど認知度が高い傾向となっている。

④リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(生涯を通じた女性の健康と権利)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	内容まで知っている	2.4	3.2	1.4	1.7
2	聞いたことがある	12.5	14.1	10.2	12.8
3	知らない	78.9	78.7	73.1	74.9
4	無記入	6.3	4.0	15.2	10.7

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	2.4	2.0	2.5	2.7	6.7	6.4	1.1	1.0	1.0	1.4	1.5	
2	12.5	13.9	13.6	7.4	18.0	19.2	11.1	15.8	6.9	10.6	10.2	8.3
3	78.9	77.7	80.8	77.2	75.3	71.8	85.6	80.2	89.2	83.7	71.5	54.2
4	6.3	6.4	3.2	12.8		2.6	2.2	3.0	2.9	4.3	16.8	37.5

<解説>

- 「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は、14.9%となっており、前回調査と比較して、2.4ポイント減少している。
- 男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が15.9%、女性が16.1%でほぼ同じ割合となっている。
- 年代別では、10代と20代で「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が他の年代より高いが、2割程度にとどまっており、全体的に認知度は低い傾向となっている。

⑤イクメン(育児と家事をパートナーと分担し、主体的に行う男性)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	
1	内容まで知っている	66.0	51.4	48.9	
2	聞いたことがある	23.4	33.6	31.1	
3	知らない	6.7	11.3	7.9	
4	無記入	3.9	3.7	12.1	

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	66.0	57.1	76.3	61.7	74.2	84.6	76.7	82.2	73.5	59.6	38.7	29.2
2	23.4	30.1	19.6	18.1	15.7	12.8	18.9	12.9	20.6	29.8	39.4	29.2
3	6.7	9.1	3.5	8.7	10.1	2.6	2.2	4.0	4.9	7.8	12.4	4.2
4	3.9	3.7	0.6	11.4			2.2	1.0	1.0	2.8	9.5	37.5

<解説>

- 「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は、89.4%となっており、前回調査と比較して、4.4ポイント増加している。
- 男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が87.2%、女性が95.9%で、女性が男性より8.7ポイント高くなっている。
- 年代別では、20代から50代の各世代で「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が9割以上となっており、他の世代においても70代以上を除いて認知度は8割以上となっている。

⑥イクボス(職場で共に働く部下・スタッフの仕事と生活との調和を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人		
1	内容まで知っている	11.9	10.2		
2	聞いたことがある	21.9	26.1		
3	知らない	61.7	60.0		
4	無記入	4.5	3.7		

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	11.9	13.2	12.0	9.4	6.7	11.5	11.1	22.8	15.7	13.5	5.8	
2	21.9	23.6	21.1	20.1	16.9	14.1	21.1	23.8	19.6	25.5	27.7	16.7
3	61.7	59.1	65.3	59.1	76.4	74.4	65.6	52.5	62.7	57.4	55.5	45.8
4	4.5	4.1	1.6	11.4			2.2	1.0	2.0	3.5	10.9	37.5

<解説>

- 「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は、33.8%となっており、前回調査と比較して、2.5ポイント減少している。
- 男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が36.8%、女性が33.1%で男性が女性より3.7ポイント高くなっている。
- 年代別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は40代が最多で46.6%となっている。

⑦ マタハラ（マタニティハラスメントの略 職場において妊娠や出産をした人に対し、妊娠や出産をしたことが業務上支障をきたすという理由で、行われる嫌がらせ） 単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人		
1	内容まで知っている	51.6	46.4		
2	聞いたことがある	27.0	37.5		
3	知らない	17.2	13.1		
4	無記入	4.2	2.9		

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	51.6	43.2	60.9	48.3	32.6	65.4	63.3	76.2	64.7	48.2	29.9	16.7
2	27.0	34.1	22.1	23.5	23.6	17.9	24.4	17.8	24.5	39.0	33.6	20.8
3	17.2	18.6	16.1	16.8	43.8	16.7	10.0	5.0	8.8	9.2	27.0	25.0
4	4.2	4.1	0.9	11.4			2.2	1.0	2.0	3.5	9.5	37.5

<解説>

○「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は、78.6%となっており、前回調査と比較して、5.3ポイント減少している。

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が77.3%、女性が83%で、女性が男性より5.7ポイント高くなっている。

○年代別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が、40代が最多で94%となっており、20代～60代は8割以上となっている。

⑧ パタハラ（パタニティーハラスメントの略 育児休暇取得や育児の短時間勤務、フレックス勤務などを申し出る男性に対する嫌がらせ） 単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人		
1	内容まで知っている	11.7	16.6		
2	聞いたことがある	20.2	27.7		
3	知らない	63.8	52.8		
4	無記入	4.3	2.9		

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	11.7	8.8	13.9	12.8	9.0	11.5	8.9	16.8	17.6	15.6	4.4	4.2
2	20.2	23.3	20.2	14.1	21.3	19.2	13.3	25.7	18.6	20.6	21.9	16.7
3	63.8	64.2	64.7	61.1	69.7	69.2	75.6	56.4	61.8	60.3	63.5	41.7
4	4.3	3.7	1.3	12.1			2.2	1.0	2.0	3.5	10.2	37.5

<解説>

○「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は、31.9%となっており、前回調査と比較して、12.4ポイント減少している。

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が32.1%、女性が34.1%で、女性が男性より2.0ポイント高くなっている。

○年代別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が最も高いのは40代だが、4割強にとどまっている。

⑨ 多様性の尊重(LGBTQや外国人など様々な属性の人々の理解と配慮の促進) 単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人			
1	内容まで知っている	30.7			
2	聞いたことがある	30.6			
3	知らない	34.1			
4	無記入	4.6			

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	30.7	28.7	35.0	25.5	53.9	56.4	34.4	37.6	31.4	22.0	5.8	8.3
2	30.6	33.1	30.0	26.8	24.7	29.5	37.8	32.7	31.4	36.9	24.1	16.7
3	34.1	33.8	34.1	34.9	21.3	14.1	24.4	28.7	34.3	38.3	59.9	33.3
4	4.6	4.4	0.9	12.8			3.3	1.0	2.9	2.8	10.2	41.7

<解説>

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が61.8%、女性が65%で女性が男性より3.2ポイント高くなっている。

○年代別では、10～40代は「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が7割以上となっている。

⑩アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見のこと)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人			
1	内容まで知っている	2.8			
2	聞いたことがある	11.4			
3	知らない	81.0			
4	無記入	4.9			

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	2.8	2.7	2.5	3.4	1.1	6.4	1.1	5.9	2.9	1.4	2.2	
2	11.4	12.2	12.3	8.1	14.6	17.9	6.7	13.9	7.8	12.1	10.2	4.2
3	81.0	80.7	83.3	76.5	84.3	75.6	90.0	79.2	87.3	81.6	75.9	58.3
4	4.9	4.4	1.9	12.1			2.2	1.0	2.0	5.0	11.7	37.5

<解説>

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が14.9%、女性が14.8%で、男女ともにほぼ同じ割合となっている。

○年代別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が最も高いのは20代であるが2割強程度にとどまっている。

○各年代において、「内容まで知っている」は1割未満となっており、認知度も1~2割程度と低い傾向となっている。

⑪SDGs(持続可能な開発目標)

単位%

番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人			
1	内容まで知っている	42.9			
2	聞いたことがある	26.6			
3	知らない	25.9			
4	無記入	4.6			

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

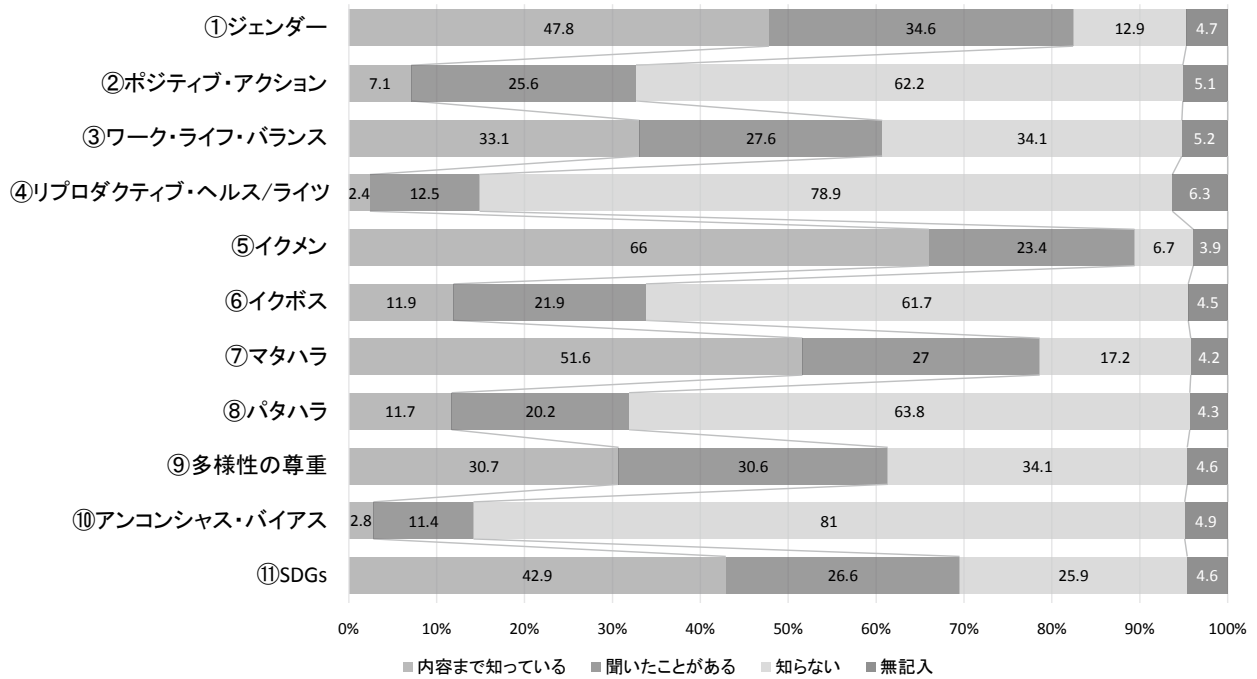
区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	42.9	40.5	49.2	34.2	80.9	62.8	42.2	55.4	38.2	34.8	15.3	12.5
2	26.6	29.1	23.3	28.9	11.2	23.1	35.6	28.7	40.2	27.0	21.2	25.0
3	25.9	26.4	26.2	24.2	7.9	14.1	20.0	14.9	19.6	34.8	51.8	25.0
4	4.6	4.1	1.3	12.8			2.2	1.0	2.0	3.5	11.7	37.5

<解説>

○男女別では、「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計は男性が69.6%、女性が72.5%で女性が男性より2.9ポイント高くなっている。

○年代別では、10~50代は「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計が7割以上となっている。

次の名称やことばについて知っていますか 単位%



<分析>①から⑪の用語の認知度について

○認知度が高いものは、⑤イクメン89.4%①ジェンダー82.4%⑦マタハラ78.6%の順となっている。

○⑨多様性の尊重、⑩アンコンシャス・バイアス、⑪SDGsについては、今回から追加した用語であるが⑨と⑪は近年、日常的に使われているので認知度が高い結果となった。

○ニュースや新聞、日常生活等で目や耳にする機会が多いものは認知度が高いが、見聞きする機会が少ないものは認知度が低い傾向にある。

○「ジェンダー」は、SDGsの目標にも使われており、最近見聞きすることが多くなっており、前回調査時より認知度が大きく増加した。

【問4-1】男は仕事、女は家庭という考え方についてどう思いますか。

単位%

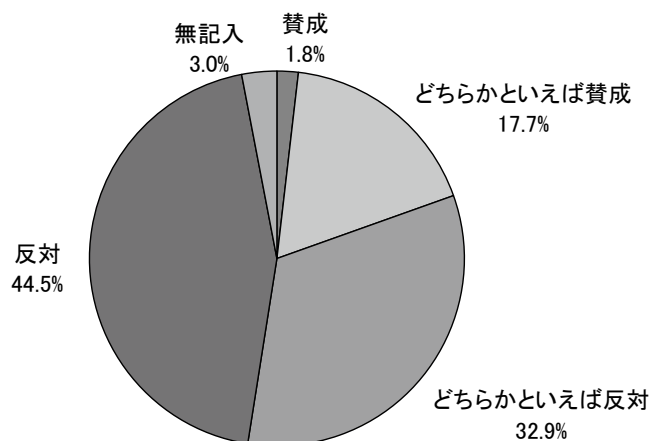
番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	賛成	1.8	3.6	3.9	6.6
2	どちらかといえば賛成	17.7	29.0	37.1	36.9
3	どちらかといえば反対	32.9	32.3	35.1	36.9
4	反対	44.5	32.4	19.2	14.3
5	無記入	3.0	2.8	4.7	5.2

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	1.8	1.4	1.9	2.7	1.1	2.6	2.2	1.0	1.0	0.7	4.4	
2	17.7	21.6	16.1	13.4	2.2	7.7	14.4	15.8	26.5	22.7	26.3	12.5
3	32.9	36.1	28.4	36.2	32.6	29.5	35.6	35.6	31.4	31.2	33.6	37.5
4	44.5	38.5	52.4	39.6	64.0	60.3	45.6	46.5	39.2	43.3	29.9	20.8
5	3.0	2.4	1.3	8.1			2.2	1.0	2.0	2.1	5.8	29.2

男は仕事、女は家庭という考え方についてどう思いますか



<解説>

○「どちらかといえば反対」と「反対」の合計は、77.4%となっており、前回調査と比較して、12.7ポイント増加している。

○男女別では、「どちらかといえば反対」と「反対」の合計は男性が74.6%、女性が80.8%で、女性が男性より6.2ポイント高くなっている。

○年代別では、「どちらかといえば反対」と「反対」の合計が10代で9割以上、20代から40代以上で8割以上となっている。

<分析>

○年代が高いほど、「男は仕事、女は家庭」という考え方に肯定的な傾向となっている。

【問4-2】「賛成」、「どちらかといえば賛成」という方にお聞きします。その理由について、3つ以内で○をつけてください。

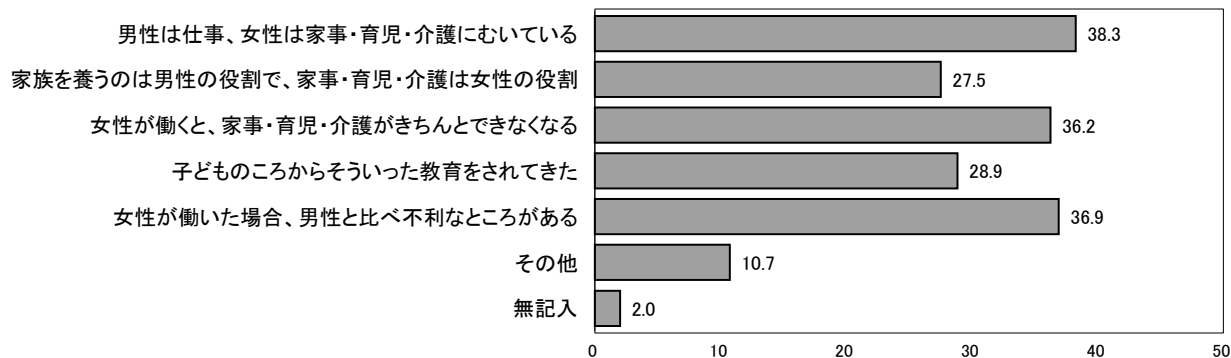
番号	区分	単位%			
		2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	149人	265人	312人	368人
1	男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいている	38.3	34.0	54.5	60.1
2	家族を養うのは男性の役割で、家事・育児・介護は女性の役割	27.5	23.4	32.7	30.4
3	女性が働く、家事・育児・介護がきちんとできなくなる	36.2	38.9	46.2	48.9
4	子どものころからそういった教育をされてきた	28.9	21.9	26.3	26.4
5	女性が働いた場合、男性と比べ不利なところがある	36.9	36.2	29.2	29.1
6	その他	10.7	14.0	8.7	5.7
7	無記入	2.0	2.3	2.9	3.0

(男女別・世代別)

単位% (回答者数のみ)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	149人	68人	57人	24人	3人	8人	15人	17人	28人	33人	42人	3人
1	38.3	38.2	43.9	25.0		37.5	40.0	29.4	35.7	39.4	42.9	66.7
2	27.5	23.5	22.8	50.0		12.5	26.7	5.9	28.6	30.3	38.1	33.3
3	36.2	29.4	47.4	29.2	33.3	37.5	40.0	17.6	39.3	30.3	45.2	33.3
4	28.9	27.9	35.1	16.7	33.3	12.5	6.7	29.4	21.4	30.3	42.9	33.3
5	36.9	32.4	40.4	41.7		25.0	46.7	52.9	57.1	30.3	26.2	
6	10.7	16.2	8.8		66.7		20.0	23.5	3.6	12.1	4.8	
7	2.0	4.4				25.0	6.7					

「賛成」、「どちらかといえば賛成」の理由(複数回答) 単位%



<解説>

○「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいている」が38.3%、「女性が働いた場合、男性と比べ不利なところがある」が36.9%、「女性が働く、家事・育児・介護がきちんとできなくなる」が36.2%の順となっている。

○男女別では、「女性が働く、家事・育児・介護がきちんとできなくなる」で、女性が男性より18ポイント高くなっている。

○年代別では、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護に向いている」が20代以上の年代で高い割合であるが、10代では0%となっている。

<分析>

○前回調査と比較して、「女性が働く、家事・育児・介護がきちんとできなくなる」が2.7ポイント低くなっており、男性の家事・育児・介護への参画が進んできていることが伺える。

○「賛成」「どちらかといえば賛成」の理由として、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいている」が最多となっており、依然として、性別による仕事と家事の分業の考えが根強く残っていることが伺える。

○一方で10代では、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいている」と「家族を養うのは男性の役割で、家事・育児・介護は女性の役割」の回答が0%となっていることから、親世代が共働きの家庭が増えており、若い世代においては性別による仕事と家事の分業の考え方が薄れてきていることが伺える。

【問4-3】「反対」、「どちらかといえば反対」という方にお聞きします。その理由について、3つ以内で○をつけてください。

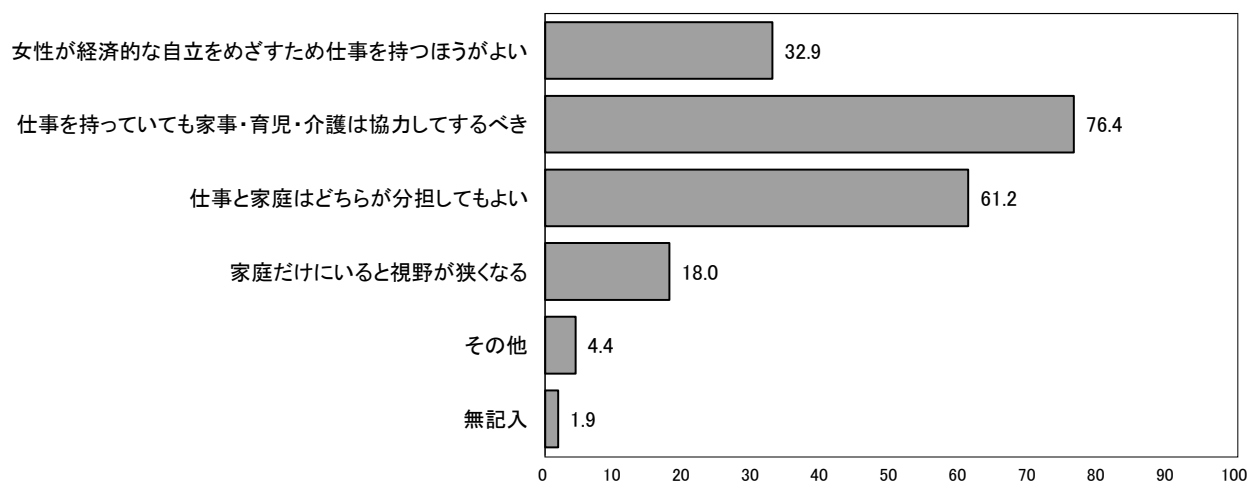
		単位%			
番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	590人	527人	413人	433人
1	女性が経済的な自立をめざすため仕事を持つほうがよい	32.9	31.3	47.2	50.3
2	仕事を持っていても家事・育児・介護は協力してすべき	76.4	76.9	76.5	79.2
3	仕事と家庭はどちらかが分担してもよい	61.2	60.9	54.2	51.7
4	家庭だけにいると視野が狭くなる	18.0	18.6	36.8	25.4
5	その他	4.4	4.7	3.1	2.1
6	無記入	1.9	1.3	2.4	3.0

(男女別・世代別)

単位% (回答者数のみ)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	590人	221人	256人	113人	86人	70人	73人	83人	72人	105人	87人	14人
1	32.9	36.7	31.6	28.3	22.1	34.3	19.2	30.1	25.0	44.8	50.6	21.4
2	76.4	71.5	82.0	73.5	73.3	62.9	78.1	72.3	86.1	83.8	79.3	57.1
3	61.2	52.9	68.4	61.1	64.0	67.1	67.1	61.4	58.3	61.9	48.3	71.4
4	18.0	19.0	15.2	22.1	10.5	14.3	17.8	19.3	13.9	25.7	19.5	28.6
5	4.4	5.4	4.7	1.8	8.1	11.4	6.8	4.8	1.4		1.1	
6	1.9	1.8	1.6	2.7	1.2			1.2	2.8	1.9	4.6	7.1

「反対」、「どちらかといえば反対」の理由(複数回答) 単位%



<解説>

○「仕事を持っていても家事・育児・介護は協力してすべき」が76.4%、「仕事と家庭はどちらかが分担してもよい」が61.2%、「女性が経済的な自立をめざすため仕事を持つほうがよい」が32.9%の順となっている。

○男女別では、「女性が経済的な自立をめざすため仕事を持つほうがよい」で、男性が5.1ポイント高くなっている。「仕事と家庭はどちらかが分担してもよい」で、女性が15.5ポイント高くなっている。

<分析>

○男女別、各年代別ともに、「仕事を持っていても、家事・育児・介護は協力してすべき」が最も高くなっている。次に、「仕事と家庭はどちらかが分担してもよい」が高くなっており、仕事や家庭における男女共同参画の考えが浸透してきていることが伺える。

【問5】「男らしさ」、「女らしさ」よりも「その人らしさ」を尊重するという考えが社会に浸透していると思いますか。

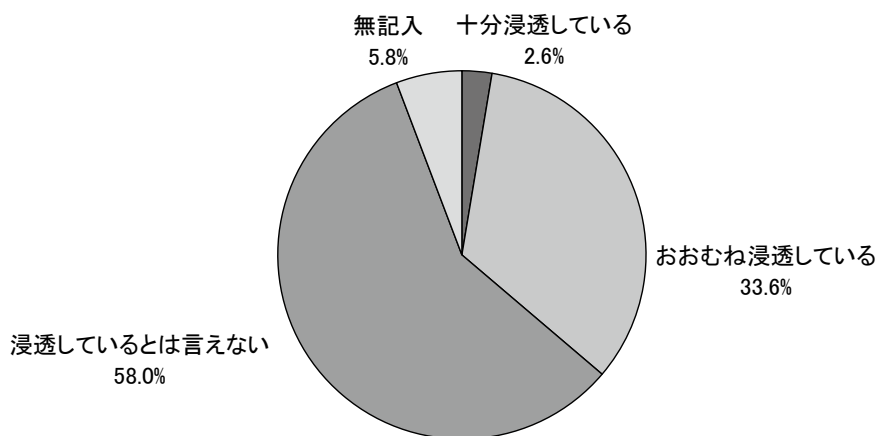
		単位%
番号	区分	2022年
	回答者数	762人
1	十分浸透している	2.6
2	おおむね浸透している	33.6
3	浸透しているとは言えない	58.0
4	無記入	5.8

(男女別・世代別)

単位% (回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	2.6	3.4	2.5	1.3	6.7	2.6		2.0	1.0	2.8	3.6	
2	33.6	35.8	35.0	26.2	44.9	37.2	27.8	28.7	31.4	31.2	38.7	16.7
3	58.0	57.4	58.0	59.1	48.3	60.3	70.0	65.3	64.7	60.3	44.5	45.8
4	5.8	3.4	4.4	13.4			2.2	4.0	2.9	5.7	13.1	37.5

「男らしさ」、「女らしさ」よりも「その人らしさ」を尊重するという考えが社会に浸透していると思いますか



<解説>

○「十分浸透している」と「おおむね浸透している」の合計は、36.2%で、「浸透しているとは言えない」が58.0%と過半数となっている。

○男女別では、「十分浸透している」と「おおむね浸透している」の合計は、男性が39.2%、女性が37.5%で、男性が女性より1.7ポイント高くなっている。

○年代別では、「十分浸透している」と「おおむね浸透している」の合計は10代が最も高く5割以上となっている。しかし、30代では、7割が「浸透しているとは言えない」と回答しており、「十分浸透している」は0%となっている。

<分析>

○「男は男らしさ」、「女は女らしさ」よりも「その人らしさ」を尊重するという考えが社会に広まりつつあるが、現実的には「浸透しているとはいえない」の割合が高くなっている。

【問6】 社会の中で、男女平等になっていないと思うところはどんなところですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

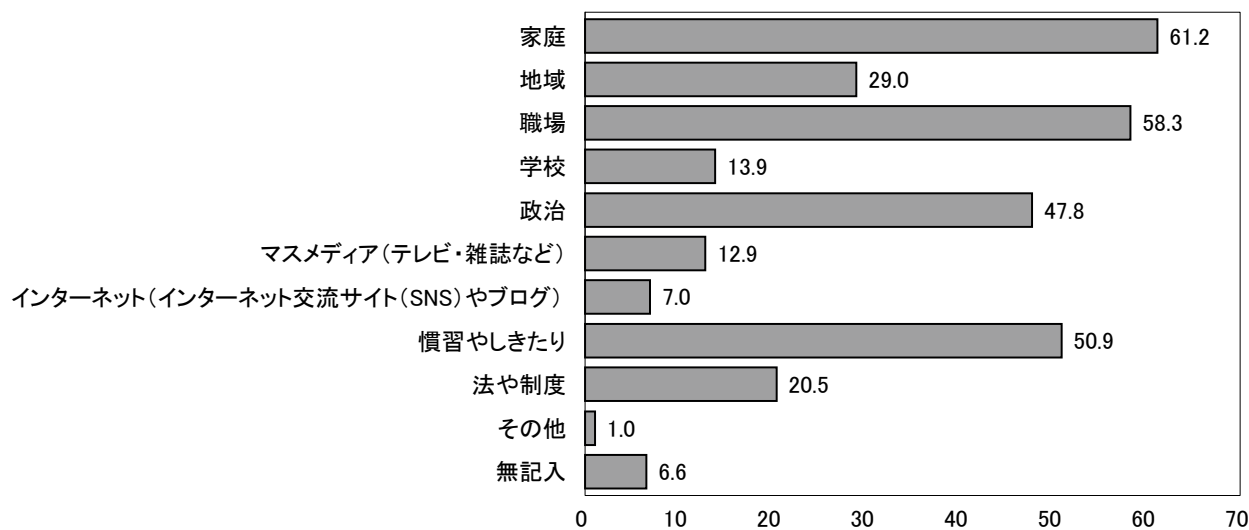
番号	区分 回答者数	単位%			
		2022年	2017年	2011年	2006年
1	家庭	61.2	33.6	34.7	33.6
2	地域	29.0	16.3	27.1	36.9
3	職場	58.3	54.5	49.7	4.6
4	学校	13.9	12.0	8	13.5
5	政治	47.8	32.3	27.1	12.9
6	マスメディア(テレビ・雑誌など)	12.9	11.4	13.3	7.0
7	インターネット(インターネット交流サイト(SNS)やブログ)	7.0	4.5		50.9
8	慣習やしきたり	50.9	52.1	56.4	47.8
9	法や制度	20.5	22.8	18.1	14.4
10	その他	1.0	2.6	2	1.0
11	無記入	6.6	9.4	15.2	11.5

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	61.2	55.1	68.8	57.0	55.1	64.1	65.6	64.4	59.8	69.5	54.7	37.5
2	29.0	29.4	28.4	29.5	19.1	24.4	32.2	29.7	26.5	33.3	34.3	20.8
3	58.3	56.8	61.2	55.0	51.7	60.3	53.3	56.4	70.6	61.0	57.7	37.5
4	13.9	11.8	14.5	16.8	23.6	16.7	14.4	15.8	13.7	9.2	9.5	12.5
5	47.8	44.9	48.9	51.0	46.1	42.3	37.8	53.5	54.9	52.5	44.5	45.8
6	12.9	12.8	12.0	14.8	15.7	20.5	10.0	16.8	14.7	11.3	5.1	16.7
7	7.0	7.4	6.3	7.4	10.1	21.8	7.8	5.9	6.9	1.4	2.9	4.2
8	50.9	53.4	50.2	47.7	40.4	57.7	51.1	58.4	50.0	56.7	47.4	25.0
9	20.5	16.2	24.3	20.8	16.9	17.9	27.8	18.8	23.5	24.8	13.9	20.8
10	1.0	1.4	0.9	0.7	2.2	2.6		1.0	1.0		1.5	
11	6.6	6.1	4.1	12.8	2.2		6.7	7.9	2.9	6.4	10.9	29.2

社会の中で、男女平等になっていないと思うところはどんなところですか(複数回答) 単位%



<解説>

- 男女平等になっていないところは、「家庭」が61.2%、「職場」が58.3%、「慣習やしきたり」が50.9%の順となっている。
- 前回調査との比較では、「家庭」が27.6ポイント、「政治」が15.5ポイント、「地域」が12.7ポイント、それぞれ高くなっている。
- 男女別では、「家庭」、「法や制度」で女性が男性よりそれぞれ13.7ポイント、8.1ポイント高くなっている。
- 年代別にみると、どの年代も「家庭」と「職場」の割合が高くなっている。

<分析>

- 「家庭」において男女平等になっていないと思う人の割合が約6割と前回調査より大きく増加し、調査開始以降、最多となった。
- 「職場」や「慣習やしきたり」で男女平等になっていないと思う人の割合が5割以上となっており、社会において、まだまだ不平等と感じる場面が多いことが伺える。

【問7】政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やす時に障壁(さまたげ)となるものは何だと思えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

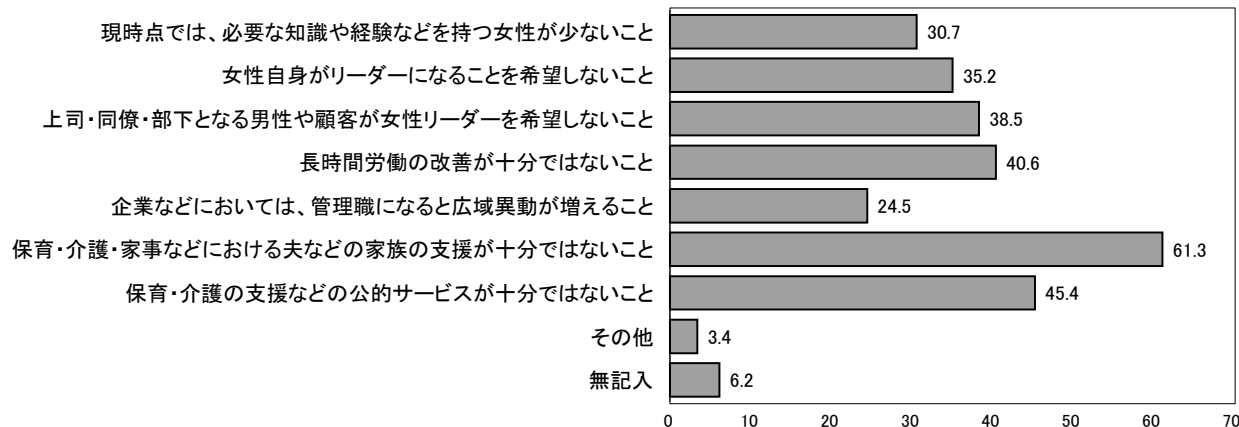
番号	区分 回答者数	単位%	
		2022年	2017年
1	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	30.7	28.2
2	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	35.2	22.2
3	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	38.5	34.6
4	長時間労働の改善が十分ではないこと	40.6	36.6
5	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	24.5	20.4
6	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	61.3	50.6
7	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	45.4	43.1
8	その他	3.4	1.5
9	無記入	6.2	7.0
	特になし	—	5.8

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	30.7	32.4	29.3	30.2	27.0	28.2	26.7	33.7	26.5	27.0	41.6	33.3
2	35.2	40.2	34.1	27.5	42.7	25.6	34.4	37.6	30.4	41.1	35.0	16.7
3	38.5	33.1	42.3	40.9	47.2	47.4	44.4	37.6	40.2	33.3	32.8	12.5
4	40.6	38.5	47.0	30.9	29.2	37.2	45.6	47.5	38.2	41.8	43.1	33.3
5	24.5	22.6	26.2	24.8	10.1	17.9	31.1	30.7	24.5	28.4	25.5	20.8
6	61.3	57.8	66.9	56.4	53.9	61.5	56.7	73.3	67.6	66.7	54.0	37.5
7	45.4	43.2	49.2	41.6	36.0	50.0	54.4	54.5	44.1	45.4	38.7	37.5
8	3.4	4.1	3.5	2.0	2.2	7.7	6.7	4.0	2.0	1.4	2.2	4.2
9	6.2	5.7	3.5	12.8	3.4	3.8	3.3	5.0	2.0	5.0	11.7	33.3

政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やす時に障壁となるものは何だと思えますか(複数回答) 単位%



<解説>

○女性のリーダーを増やす時の障壁(さまたげ)となるものは、「保育・介護・家庭などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が61.3%、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと」が45.4%、「長時間労働の改善が十分でないこと」が40.6%の順になっている。

○前回調査との比較では、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が13ポイント高くなっている。

○男女別では、男女共に「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が最も高くなっている。

<分析>

○「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と思う人が多い割合となっており、女性にとって、仕事と家庭の両立が難しい現状が伺える。

【問8】「仕事」(※)や「個人や家庭の生活」について、次のうち、あなたの希望に最も近いものを1つ選んでください。

単位%

番号	区分	2022年	2017年
	回答者数		
1	「仕事」を優先したい	3.9	5.9
2	「個人や家庭の生活」を優先したい	31.2	32.8
3	「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立したい	61.3	54.4
4	無記入	3.5	7.0

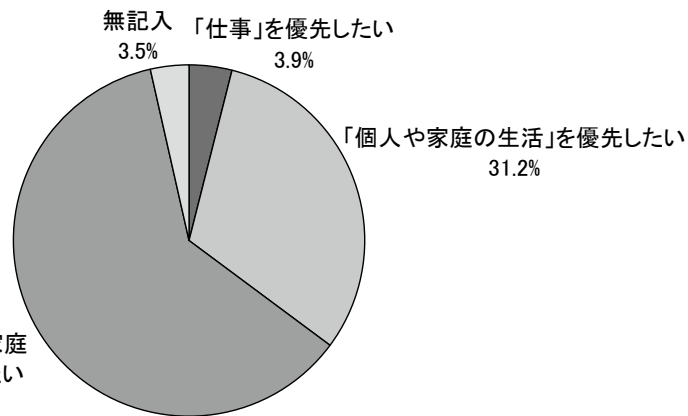
※学生の方は「仕事」を「学業」に置き換えてください。

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	3.9	6.8	1.9	2.7	7.9	1.3	2.2	5.0	3.9	2.1	5.8	
2	31.2	35.1	31.5	22.8	21.3	35.9	33.3	31.7	31.4	32.6	33.6	20.8
3	61.3	55.7	64.0	66.4	70.8	61.5	63.3	61.4	63.7	63.1	51.8	50.0
4	3.5	2.4	2.5	8.1		1.3	1.1	2.0	1.0	2.1	8.8	29.2

「仕事」や「個人や家庭の生活」について、あなたの希望に最も近いもの



<解説>

- 「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立したいが最も高い割合で6割を占め、前回調査と比較して6.9ポイント高くなっている。
- 男女別では、「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立したいが男女共に高い割合で、女性は男性より8.3ポイント高くなっている。
- 年代別では、どの年代も「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立したいが5割以上を占めており、特に10代が約7割と最も高くなっている。

<分析>

- 「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立したいと考える人が増えていることから、男性も女性と一緒に家事・育児に関わりながら生活をしていく意識の高まりが伺える。
- 仕事を優先したい人は、前回調査より2ポイント減少し、「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立したい人が6割強となっていることから、「ワーク・ライフ・バランス」の考えが広がってきていると考えられる。

【問9】 それでは、次のうち、あなたの現実(現状)に最も近いものを1つ選んでください。

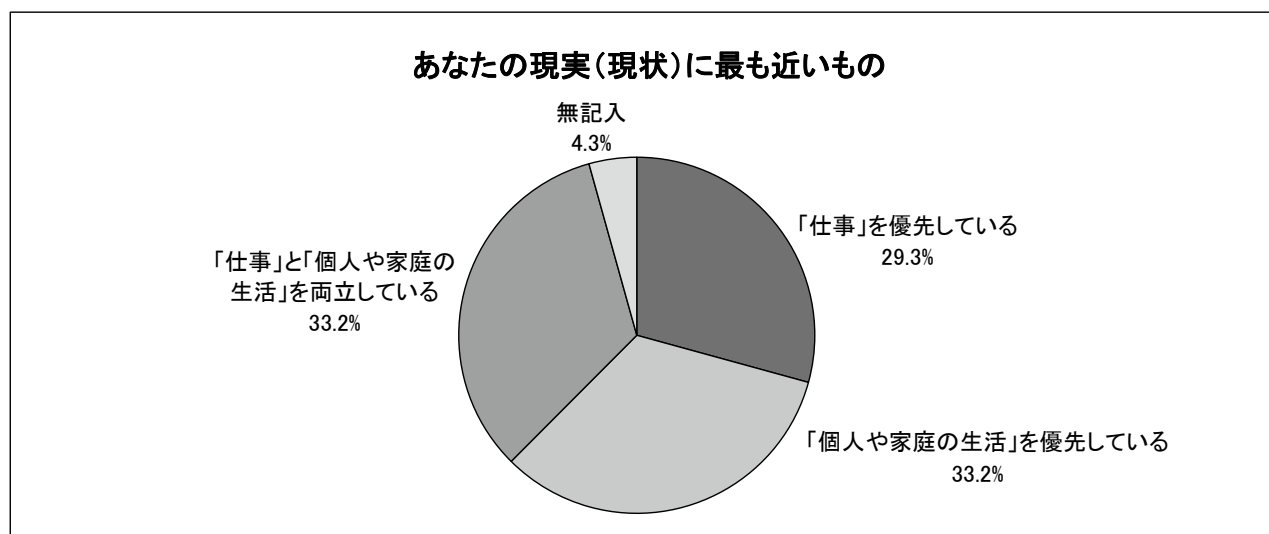
単位%

番号	区分	2022年	2017年
	回答者数	762人	815人
1	「仕事」を優先している	29.3	26.1
2	「個人や家庭の生活」を優先している	33.2	32.1
3	「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立している	33.2	33.5
4	無記入	4.3	8.2

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	29.3	34.5	24.3	29.5	34.8	35.9	37.8	39.6	32.4	22.0	14.6	25.0
2	33.2	29.7	39.7	26.2	30.3	28.2	30.0	26.7	34.3	34.0	46.0	16.7
3	33.2	33.1	33.1	33.6	34.8	34.6	30.0	30.7	32.4	41.1	29.9	20.8
4	4.3	2.7	2.8	10.7		1.3	2.2	3.0	1.0	2.8	9.5	37.5



<解説>

○「個人や家庭の生活」を優先している」と「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立している」が共に33.2%となっている。「仕事を優先している」は29.3%となっており、3.2ポイント増加している。

○男女別では、「仕事」を優先している」で男性が女性より10.2ポイント高くなっており、「個人や家庭の生活」を優先している」で女性が男性より10ポイント高くなっている。

○年代別では、40代までは「仕事」を優先している」が高い割合を占めているが、50代以降は、「個人や家庭の生活」を優先する傾向にある。

<分析>

○【問8】で「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立したい」と回答した人が約6割であるのに対し、現状では、両立している人は3割程度にとどまっており、理想と現実にかなり差があると言える。

【問10】男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

単位%

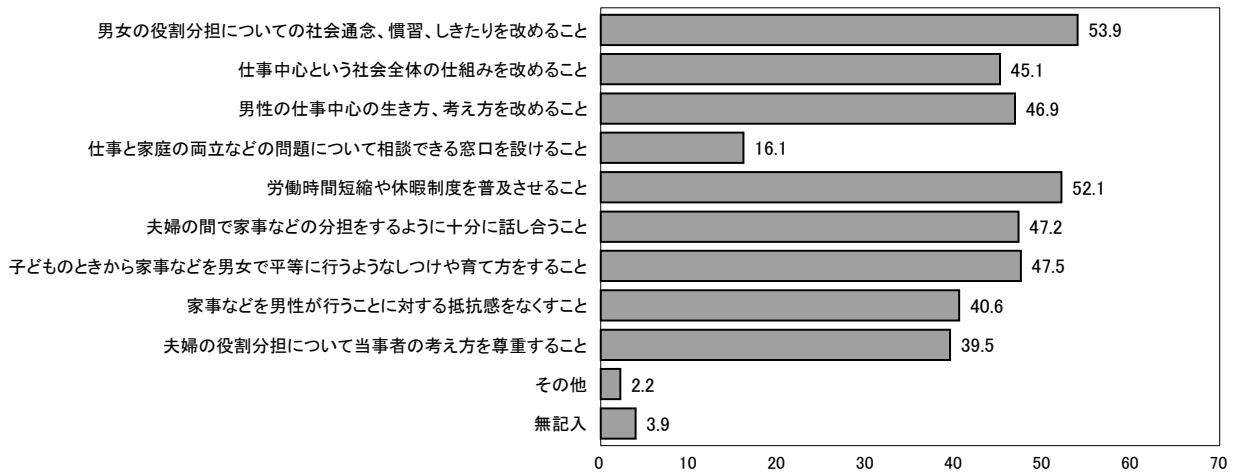
番号	区分	2022年	2017年
	回答者数	762人	815人
1	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	53.9	46.6
2	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	45.1	35.0
3	男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	46.9	35.3
4	仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	16.1	11.5
5	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	52.1	47.5
6	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	47.2	41.8
7	子どものときから家事などを男女で平等に行うようなしつけや育て方をすること	47.5	35.7
8	家事などを男性が行うことに対する抵抗感をなくすこと	40.6	39.1
9	夫婦の役割分担について当事者の考え方を尊重すること	39.5	28.3
10	その他	2.2	2.5
11	無記入	3.9	8.1

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	53.9	49.0	58.7	53.7	62.9	50.0	60.0	52.5	59.8	58.9	39.4	45.8
2	45.1	44.6	49.2	37.6	37.1	65.4	53.3	57.4	52.0	38.3	29.2	29.2
3	46.9	45.6	49.2	44.3	53.9	41.0	50.0	53.5	47.1	49.6	38.7	29.2
4	16.1	18.6	14.8	14.1	18.0	23.1	15.6	13.9	17.6	11.3	18.2	8.3
5	52.1	51.4	58.0	40.9	57.3	67.9	66.7	48.5	51.0	49.6	38.0	41.7
6	47.2	46.3	47.9	47.7	57.3	51.3	54.4	36.6	47.1	47.5	44.5	29.2
7	47.5	40.5	53.6	48.3	50.6	43.6	50.0	51.5	51.0	46.8	43.1	37.5
8	40.6	32.1	49.8	37.6	47.2	42.3	38.9	49.5	42.2	37.6	32.8	33.3
9	39.5	40.2	41.3	34.2	38.2	37.2	33.3	40.6	40.2	39.0	48.2	20.8
10	2.2	3.7	1.6	0.7	1.1	3.8	5.6	3.0	1.0			2.9
11	3.9	2.4	3.2	8.7	1.1	2.6	2.2	2.0	1.0	2.8	8.0	29.2

男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、
どのようなことが必要だと思いますか(複数回答) 単位%



<解説>

○「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が53.9%、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が52.1%、「子どものときから家事などを男女で平等に行うようなしつけや育て方をすること」が47.5%の順となっている。

<分析>

○男性が女性とともに積極的に参加していくためには、社会通念や慣習など意識の見直しとともに労働時間や休暇制度など働き方の見直しも必要と考える人が多いことが伺える。

【問11-1】セクシュアル・ハラスメント(性的な言動による嫌がらせ行為)についてお聞きします。あなたはセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。

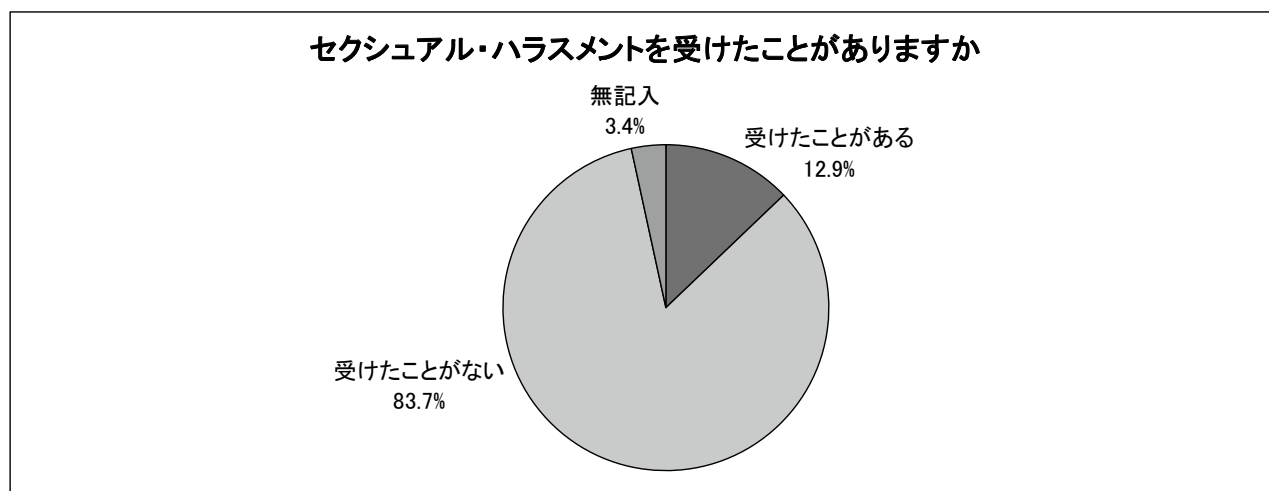
単位%

番号	区分	2022年	2017年
	回答者数	762人	815人
1	受けたことがある	12.9	10.2
2	受けたことがない	83.7	83.3
3	無記入	3.4	6.5

(男女別・世代別)

単位% (回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	12.9	5.4	18.6	15.4	3.4	19.2	16.7	27.7	14.7	8.5	5.8	8.3
2	83.7	91.6	80.1	75.8	95.5	80.8	83.3	70.3	85.3	87.9	87.6	54.2
3	3.4	3.0	1.3	8.7	1.1			2.0		3.5	6.6	37.5



<解説>

○「受けたことがある」は、12.9%で前回調査より2.7ポイント増加している。

○男女別では、「受けたことがある」は、男性が5.4%、女性が18.6%で女性が男性より13.2ポイント高くなっており、男性の約3倍の割合となっている。

○年代別では、「受けたことがある」は、40代が最多で27.7%となっており、20代、30代、50代で15~20%程度となっている。

<分析>

○20代~50代は働き盛りの世代でハラスメントを受けやすいと考えられる。

【問11-2】受けたことがあるとお答えした方にお聞きます。セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、誰かに相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

単位%

番号	区分	2022年	2017年
	回答者数	98人	83人
1	都道府県の相談機関	2.0	2.4
2	警察	2.0	2.4
3	市町村役場	0.0	0.0
4	弁護士	0.0	1.2
5	民間団体	0.0	1.2
6	職場の上司や職場の相談窓口	16.3	13.3
7	各種電話相談	3.1	1.2
8	家族	13.3	20.5
9	友人・知人	27.6	30.1
10	その他	0.0	3.6
11	相談していない	53.1	47.0
12	どこに相談をしてよいのかわからない	8.2	4.8
13	無記入	2.0	0.0

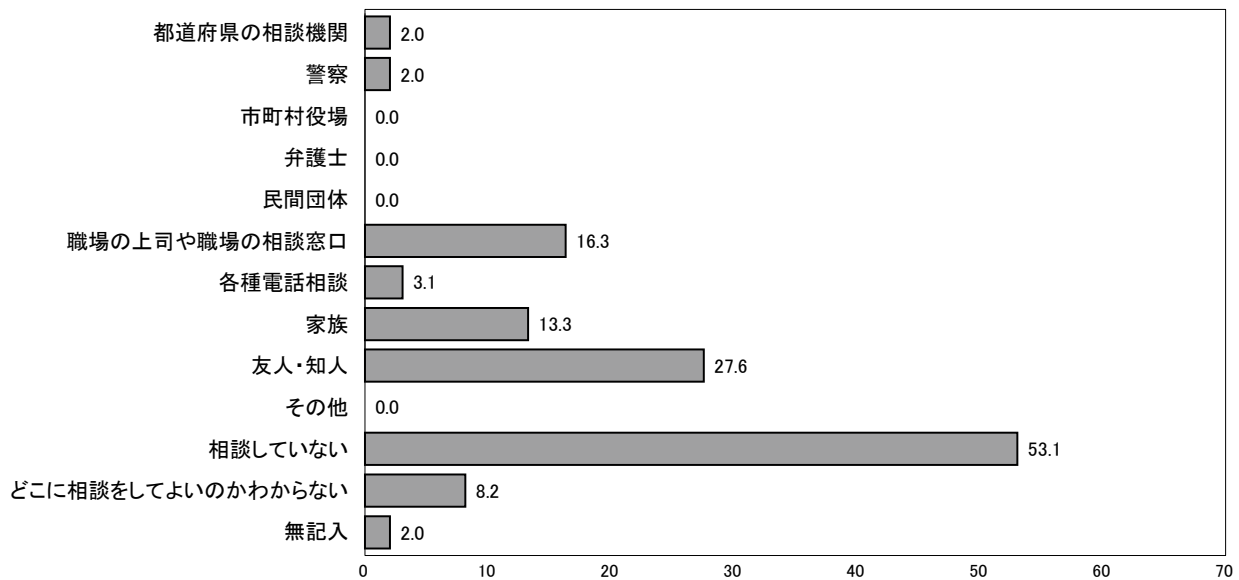
※学生の方は「職場の上司」を「学校の先生」に置き換えてください。

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	98人	16人	59人	23人	3人	15人	15人	28人	15人	12人	8人	2人
1	2.0		3.4					3.6		8.3		
2	2.0	6.3	1.7			6.7				8.3		
3												
4												
5												
6	16.3	6.3	20.3	13.0		20.0	13.3	21.4	13.3	8.3	25.0	
7	3.1		3.4	4.3			6.7	3.6		8.3		
8	13.3	6.3	15.3	13.0		6.7	33.3	17.9	6.7	8.3		
9	27.6	25.0	30.5	21.7	33.3	20.0	26.7	35.7	26.7	25.0	25.0	
10												
11	53.1	62.5	47.5	60.9	66.7	66.7	33.3	42.9	60.0	83.3	25.0	100.0
12	8.2	12.5	6.8	8.7			26.7		6.7	8.3	25.0	
13	2.0	6.3	1.7					7.1				

セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、誰かに相談しましたか(複数回答) 単位%



<解説>

○「相談していない」が最多で53.1%、「友人・知人」が27.6%、「職場の上司や職場の相談窓口」が16.3%の順となっている。前回調査と比較して、「相談していない」は6.1ポイント増加している。

○男女別では、「相談していない」が男性62.5%、女性47.5%で、男性の方が15ポイント高くなっている。

<分析>

○公的機関や民間団体と回答した割合が低くなっており、相談窓口としてあまり利用されていない状況となっている。「どこに相談して良いかわからない」と回答した人も1割近くいるため、相談窓口の周知と相談しやすい体制づくりが必要である。

【問11-3】「相談していない」とお答えした人にお聞きします。相談しなかった理由についてあてはまるものすべてに○をつけてください。

単位%

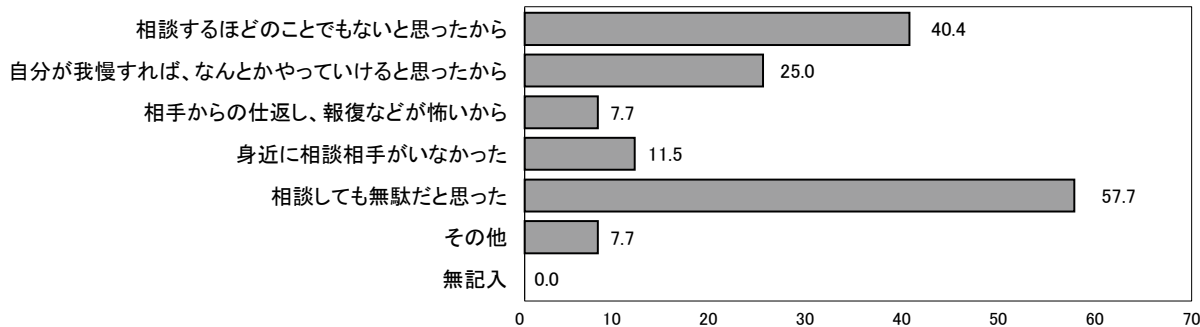
番号	区分	2022年
	回答者数	52人
1	相談するほどのことでもないと思ったから	40.4
2	自分が我慢すれば、なんとかやっていたら	25.0
3	相手からの仕返し、報復などが怖いから	7.7
4	身近に相談相手がいなかった	11.5
5	相談しても無駄だと思った	57.7
6	その他	7.7
7	無記入	0.0

(男女別・世代別)

単位% (回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	52人	10人	28人	14人	2人	10人	5人	12人	9人	10人	2人	2人
1	40.4	60.0	42.9	21.4	50.0	60.0	20.0	41.7	22.2	40.0	100.0	
2	25.0	30.0	17.9	35.7		20.0		50.0	11.1	30.0		50.0
3	7.7	10.0	7.1	7.1		10.0			11.1	20.0		
4	11.5		10.7	21.4		10.0		25.0	11.1			50.0
5	57.7	50.0	53.6	71.4		50.0	100.0	75.0	33.3	60.0		100.0
6	7.7		10.7	7.1	50.0		20.0		11.1	10.0		
7												

相談しなかった理由(複数回答) 単位%



<解説>

○「相談しても無駄だと思った」が57.7%、「相談するほどのことでもないと思ったから」が40.4%、「自分が我慢すれば、なんとかやっていたら」が25.0%の順になっている。

○男女別では、男性は「相談するほどのことでもないと思ったから」の回答が高くなっている。女性は「相談しても無駄だと思った」の回答が高くなっている。

<分析>

○相談しなかった理由として、「相談しても無駄だと思った」と回答した人が半数以上の割合となっており、相談しても解決につながらないと思う人が多いことが伺える。自分で抱え込み、我慢し、泣き寝入りしているケースも見受けられる。

【問11-4】あなたの身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がありますか。

単位%

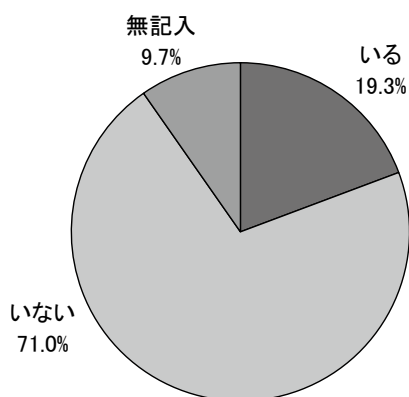
番号	区分	2022年	2017年
	回答者数	762人	815人
1	いる	19.3	16.2
2	いない	71.0	72.0
3	無記入	9.7	11.8

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	19.3	20.3	20.2	15.4	4.5	35.9	25.6	29.7	23.5	20.6	5.1	8.3
2	71.0	70.3	73.2	67.8	94.4	60.3	70.0	63.4	73.5	67.4	74.5	45.8
3	9.7	9.5	6.6	16.8	1.1	3.8	4.4	6.9	2.9	12.1	20.4	45.8

あなたの身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がありますか



<解説>

- 「身近に受けた人がある」と回答した人は、19.3%で前回調査と比較すると3.1ポイント増加している。
- 男女別では、男女共に2割の人が「身近に受けた人がある」と回答している。
- 年代別では、20代の3割強の人が「身近に受けた人がある」と回答している。

<分析>

- 「自分が受けたことがある人」は1割程度であるが、「身近に受けた人がある」と回答した人の割合が約2割となっており、セクシュアル・ハラスメントが身近にあると感じる人は3割程度いることが伺える。

【問12-1】ドメスティック・バイオレンス(夫や恋人など親密な関係にある者からの身体的、精神的、性的又は経済的な暴力)についてお聞きします。あなたはドメスティック・バイオレンスを受けたことがありますか。

単位%

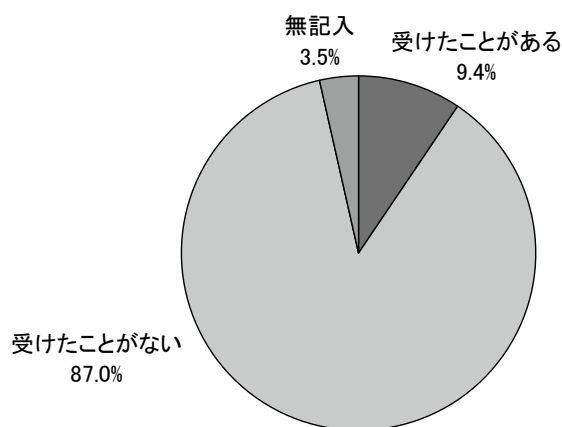
番号	区分	2022年	2017年
	回答者数	762人	815人
1	受けたことがある	9.4	9.7
2	受けたことがない	87.0	83.7
3	無記入	3.5	6.6

(男女別・世代別)

単位% (回答者数のみ)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	9.4	4.4	11.7	14.8	1.1	3.8	15.6	16.8	10.8	11.3	5.8	8.3
2	87.0	92.9	86.8	75.8	98.9	94.9	82.2	81.2	89.2	86.5	85.4	62.5
3	3.5	2.7	1.6	9.4		1.3	2.2	2.0		2.1	8.8	29.2

ドメスティック・バイオレンスを受けたことがありますか



<解説>

- 「受けたことがある」の回答は9.4%で、前回調査と比較するとほぼ横ばいとなっている。
- 男女別では、男性が4.4%、女性が11.7%で女性が男性より7.3ポイント高くなっている。
- 年代別では、30～60代の1割強の人が「受けたことがある」と回答している。

<分析>

- 30～60代の働き盛りの世代がドメスティック・バイオレンスを受ける割合が高い傾向となっている。

【問12-2】「受けたことがある」とお答えした方にお聞きます。ドメスティック・バイオレンスを受けたとき、誰かに相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

単位%

番号	区分	2022年	2017年
	回答者数	72人	79人
1	都道府県の相談機関	1.4	1.3
2	警察	5.6	3.8
3	市町村役場	2.8	2.5
4	弁護士	2.8	3.8
5	民間団体	0.0	1.3
6	職場の上司や職場の相談窓口	5.6	1.3
7	各種電話相談	5.6	1.3
8	家族	18.1	31.6
9	友人・知人	36.1	30.4
10	その他	0.0	5.1
11	相談していない	41.7	41.8
12	どこに相談をしてよいのかわからない	12.5	3.8
13	無記入	2.8	1.3

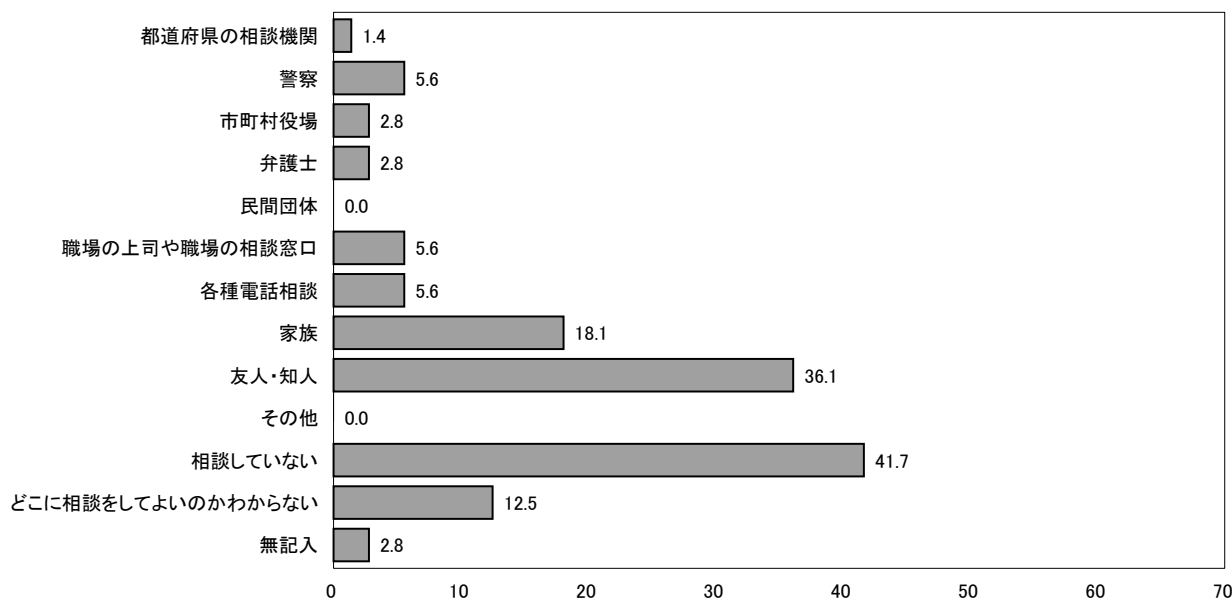
※学生の方は「職場の上司」を「学校の先生」に置き換えてください。

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	72人	13人	37人	22人	1人	3人	14人	17人	11人	16人	8人	2人
1	1.4		2.7					5.9				
2	5.6		8.1	4.5			7.1	5.9		12.5		
3	2.8		2.7	4.5				5.9			12.5	
4	2.8		2.7	4.5						12.5		
5												
6	5.6	7.7	2.7	9.1				5.9	9.1	6.3	12.5	
7	5.6		5.4	9.1			7.1	5.9		12.5		
8	18.1	7.7	27.0	9.1		33.3	28.6	17.6	27.3	12.5		
9	36.1	30.8	40.5	31.8		33.3	35.7	29.4	54.5	31.3	50.0	
10												
11	41.7	46.2	37.8	45.5	100.0	66.7	35.7	47.1	36.4	37.5	25.0	100.0
12	12.5	30.8	8.1	9.1		33.3		11.8	18.2	18.8	12.5	
13	2.8		2.7	4.5				5.9		6.3		

ドメスティック・バイオレンスを受けたとき、誰かに相談しましたか(複数回答) 単位%



<解説>

○「相談していない」が41.7%、「友人・知人」が36.1%、「家族」が18.1%の順になっている。

○男女別では、「相談していない」が男性より女性の方が多く、「どこに相談してよいのかわからない」と回答した男性は約3割となっている。

<分析>

○「相談していない」と回答した人が最多で約4割となっており、「セクシュアル・ハラスメント」と同様に内容的に相談しづらい問題であることが伺える。

○ドメスティック・バイオレンスは命に関わることもある問題のため、躊躇せず、相談できる体制づくりが必要である。

【問12-3】「相談していない」とお答えした人にお聞きします。相談しなかった理由についてあてはまるものすべてに○をつけてください。

単位%

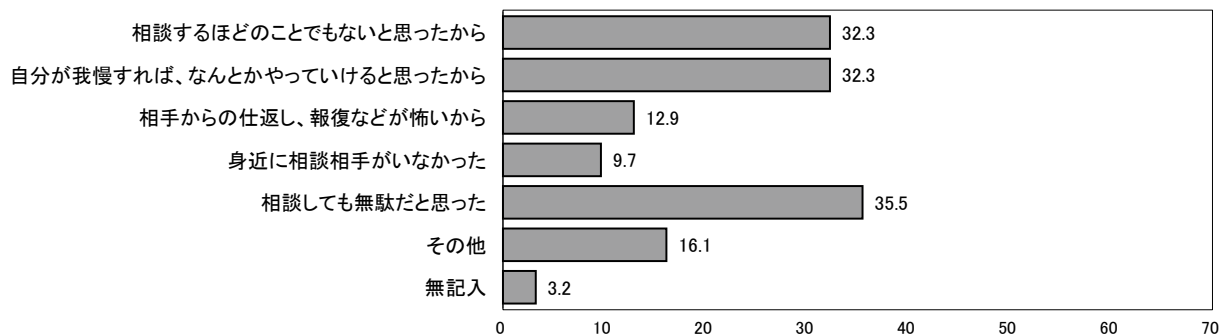
番号	区分	2022年
	回答者数	31人
1	相談するほどのことでもないと思ったから	32.3
2	自分が我慢すれば、なんとかやっているとと思ったから	32.3
3	相手からの仕返し、報復などが怖いから	12.9
4	身近に相談相手がいなかった	9.7
5	相談しても無駄だと思った	35.5
6	その他	16.1
7	無記入	3.2

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	31人	6人	15人	10人	2人	2人	5人	8人	4人	6人	2人	2人
1	32.3	16.7	33.3	40.0	50.0	100.0		25.0	50.0	50.0		
2	32.3	16.7	33.3	40.0		50.0	60.0	50.0		16.7		50.0
3	12.9	16.7	6.7	20.0				25.0	25.0			50.0
4	9.7	33.3		10.0				12.5	25.0	16.7		
5	35.5	16.7	40.0	40.0	50.0		20.0	25.0	50.0	33.3	100.0	50.0
6	16.1	33.3	13.3	10.0			40.0	25.0		16.7		
7	3.2			10.0			20.0					

相談しなかった理由(複数回答) 単位%



<解説>

○「相談しても無駄だと思った」が35.5%、「相談するほどのことでもないと思ったから」と、「自分が我慢すればなんとかやっているとと思ったから」が共に32.3%の順になっている。

○男女別では、男性は「身近に相談相手がいなかった」の回答が高くなっているが、女性は「相談しても無駄だと思った」の回答が高くなっている。

<分析>

○男性は「身近に相談相手がいない」の回答が高くなっていることから、誰に相談して良いかわからない状態であるが、女性は「相談しても無駄だ」の回答が高くなっていることから、相談すること自体をあきらめている傾向が伺える。

○全体で3割強の人が「相談しても無駄だ」と回答しており、相談先の周知に加え、相談につなげる仕組みづくりも必要である。

【問12-4】あなたの身近にドメスティック・バイオレンスを受けた人がいますか。

単位%

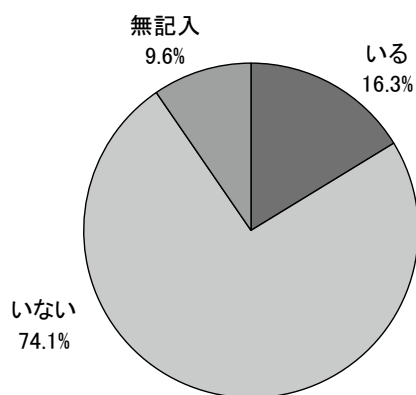
番号	区分	2022年	2017年
	回答者数	762人	815人
1	いる	16.3	17.4
2	いない	74.1	71.4
3	無記入	9.6	11.2

(男女別・世代別)

単位% (回答者数のみ)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	16.3	13.9	20.5	12.1	4.5	16.7	23.3	30.7	16.7	18.4	8.8	
2	74.1	78.7	71.9	69.8	94.4	79.5	70.0	59.4	79.4	73.8	70.8	58.3
3	9.6	7.4	7.6	18.1	1.1	3.8	6.7	9.9	3.9	7.8	20.4	41.7

あなたの身近にドメスティック・バイオレンスを受けた人がいますか



<解説>

- 「身近に受けた人がいる」と回答した人は、16.3%で前回調査と比較すると1.1ポイント減少している。
- 男女別では、「いる」と回答した人は女性が20.5%で男性より6.6ポイント高くなっている。
- 年代別では、「いる」と回答した割合が高いのは40代で約3割となっている。

<分析>

- 自身がドメスティック・バイオレンスを受けたことがあると回答した人が1割程度、身近に受けた人がいると回答した人が約2割となっており、ドメスティック・バイオレンスを身近にあると感じている人が3割程度いることが伺える。

【問13-1】今後、女性の社会参画を進めていくことが必要だと思いますか。

単位%

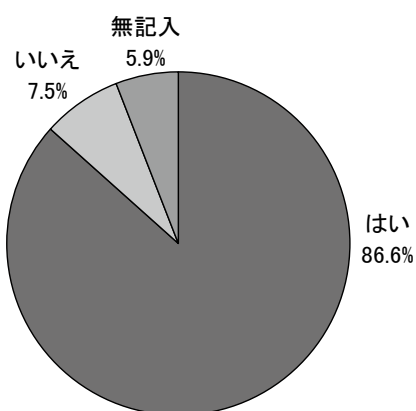
番号	区分	2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	815人	761人	845人
1	はい	86.6	79.8	75.3	81.2
2	いいえ	7.5	11.8	10.9	10.3
3	無記入	5.9	8.5	13.8	8.5

(男女別・世代別)

単位%(回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	86.6	90.2	86.1	80.5	94.4	93.6	88.9	88.1	89.2	89.4	74.5	62.5
2	7.5	7.1	8.2	6.7	5.6	3.8	8.9	9.9	6.9	7.1	10.2	
3	5.9	2.7	5.7	12.8		2.6	2.2	2.0	3.9	3.5	15.3	37.5

今後、女性の社会参画を進めていくことが必要だと思いますか



<解説>

○「はい」と答えた人は、86.6%で前回調査と比較すると6.8ポイント増加している。

○男女別では、「はい」の回答は男性が女性より4.1ポイント高くなっている。

○年代別では、「はい」と回答した人が10～20代は9割以上となっており、30～60代で、8割以上となっている。

<分析>

○女性の社会参画を進めていくことの必要性は、調査を行うごとに「必要」と回答する人の割合が増えており、男女共同参画の気運は高まっていることが伺える。

【問13-2】13-1で「はい」とお答えした人にお聞きます。次のうち、必要と思うものすべてに○をつけてください。

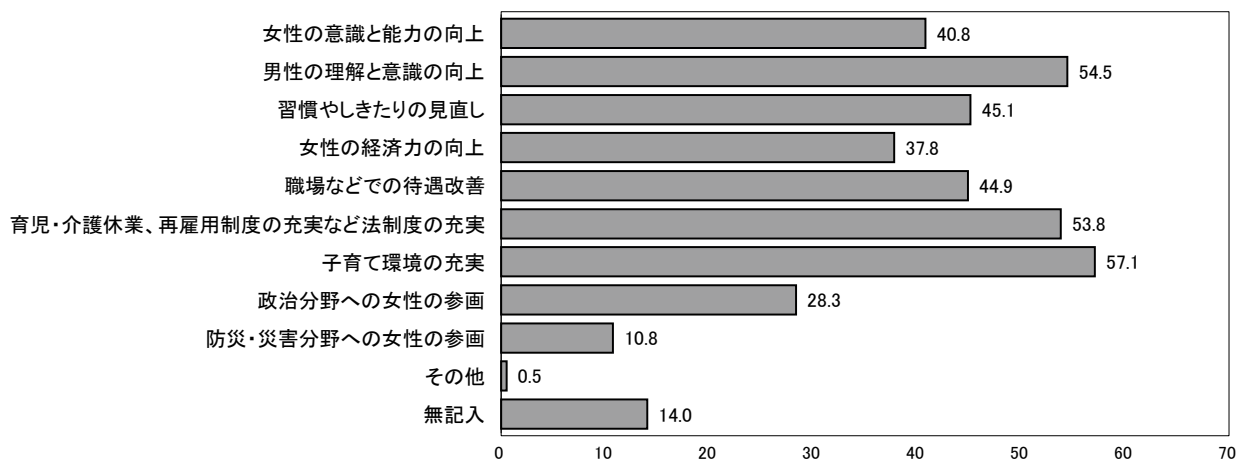
番号	区分	単位%			
		2022年	2017年	2011年	2006年
	回答者数	762人	650人	573人	686人
1	女性の意識と能力の向上	40.8	44.3	50.8	41.4
2	男性の理解と意識の向上	54.5	57.4	49.7	41.8
3	習慣やしきたりの見直し	45.1	41.5	46.2	31.6
4	女性の経済力の向上	37.8	32.6	30.5	14.7
5	職場などでの待遇改善	44.9	46.9	41.7	28.0
6	育児・介護休業、再雇用制度の充実など法制度の充実	53.8	60.6	56.5	56.6
7	子育て環境の充実	57.1	60.0	50.6	21.6
8	政治分野への女性の参画	28.3	16.0	22.7	
9	防災・災害分野への女性の参画	10.8	9.2	13.6	
10	その他	0.5	0.2	0.5	0.6
11	無記入	14.0	0.8	0.0	0.7

(男女別・世代別)

単位% (回答者数のみ人)

区分	全体	男性	女性	無記入	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入
回答者数	762人	296人	317人	149人	89人	78人	90人	101人	102人	141人	137人	24人
1	40.8	42.9	37.9	43.0	34.8	28.2	37.8	45.5	37.3	46.1	48.2	37.5
2	54.5	56.1	56.2	47.7	58.4	51.3	52.2	65.3	54.9	57.4	47.4	33.3
3	45.1	47.6	43.2	44.3	44.9	46.2	46.7	50.5	52.9	45.4	35.0	37.5
4	37.8	34.1	42.3	35.6	28.1	47.4	34.4	41.6	45.1	38.3	32.1	37.5
5	44.9	47.0	45.7	38.9	42.7	55.1	46.7	46.5	50.0	44.0	37.2	33.3
6	53.8	50.7	58.0	51.0	49.4	59.0	58.9	58.4	54.9	57.4	46.0	33.3
7	57.1	56.4	59.9	52.3	61.8	67.9	66.7	62.4	58.8	56.0	40.9	37.5
8	28.3	30.4	25.9	29.5	31.5	23.1	24.4	35.6	25.5	28.4	27.7	33.3
9	10.8	9.5	10.4	14.1	9.0	9.0	13.3	13.9	6.9	9.2	13.1	12.5
10	0.5	1.0	0.3		1.1	2.6	1.1					
11	14.0	10.1	15.1	19.5	5.6	6.4	12.2	11.9	10.8	12.1	27.0	37.5

女性の社会参画を進めていく為に必要と思うもの(複数回答) 単位%



<解説>

○「子育ての環境の充実」が57.1%、「男性の理解と意識の向上」が54.5%、「育児・介護休業、再雇用制度の充実など法制度の充実」が53.8%の順となっている。

<分析>

○「政治分野への女性の参画」や「防災・災害分野への女性の参画」に対する必要性が低い割合となっているため、あらゆる分野において女性の参画の必要性を高めていくため、講座や講演会などを通して啓発していく必要がある。

Ⅲ 調査のまとめ

1 はじめに

新発田市は、2015年（平成27）に「新発田市男女共同参画推進条例」を制定し、2019年（令和元）に策定した「第4次しばた男女共同参画推進プラン」に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた様々な取組を進めている。

社会情勢や男女共同参画を取り巻く環境の変化、それに伴う市民意識の変化を施策に反映させるため、5年に1度、プランの改定を行っている。2024年（令和6）の計画改定の基礎資料とするため、昨年7月から8月にかけて、「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施し、調査結果を本報告書にまとめた。

男女共同参画に関する課題は、様々な分野における女性登用率の向上やワーク・ライフ・バランスの推進など、未だ途上段階にあり、男女がお互いを尊重し合い、活躍できる社会に向けて、より一層の取組が求められている。

この調査から見えてくる市の現状、課題について検証、分析し、今後の男女共同参画施策に活かすよう、事業の見直しや更なる取組を進めていく。

2 調査結果について

【問1】について

「男女共同参画社会」ということばを知っているかを尋ねた設問では、「知っている」と回答した人は48.6%で、前回（2017年）調査（以下「前回調査」という）より微増し、「聞いたことはあるが、あまり知らない」も含めると約8割となっており、認知度は4.6ポイント上昇した。

前々回（2011年）調査と比較すると、認知度は18.6ポイント上昇しており、「男女共同参画社会」という言葉自体は、市民に認知されてきていると考えられる。

【問2、問3】について

男女共同参画に関する法律や計画、用語の認知度について調査した。

【問2】の男女共同参画に関する法律や新発田市の条例・プランについて知っているかを尋ねた設問では、法律については「聞いたことがある」も含めた認知度は50%を超えているが、新発田市の条例・プランについ

では 20%程度となっており、前回調査に引き続き認知度は低い割合となっている。

【問3】の男女共同参画に関連する名称やことばについて知っているかを尋ねた設問では、前回調査の8項目に、「多様性の尊重」、「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」、「SDGs（持続可能な開発目標）」を追加し11項目とした。

社会的・文化的性差を意味する「ジェンダー」の認知度は82.4%で前回調査より約2倍の40.7ポイント上昇した。

「ジェンダー平等」はSDGsの目標にもなっており、広く社会に広まってきている背景が伺える。

男女共同参画に関する名称やことばについては、認知度が1割程度のものから9割程度のものまで、バラつきがあり、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（生涯を通じた女性の健康と権利）」や「アンコンシャス・バイアス」など、まだまだ市民に浸透していないことばも見受けられる。

男女共同参画に関する法律やことばについて、「内容まで知っている」と回答した人の割合は、いずれも低い傾向にあり、内容を知ることによって現状の理解や意識の向上につながることから、これらの法律やことばの内容について、あらゆる場面において分かりやすく周知していく必要がある。

【問4-1、問4-2、問4-3】について

男は仕事、女は家庭という考え（性別役割分担意識）について尋ねた設問では「どちらかといえば」も含めて「反対」と回答した人は77.4%で、女性は80.8%となっている。

調査するごとに、「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答する人の割合が減少し、「反対」、「どちらかといえば反対」と回答する人の割合は増加してきており、「男は仕事、女は家庭」という考えに否定的な人が増えている。

賛成の理由としては、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいている」、「女性が働いた場合、男性と比べ不利なところがある」、「女性が働くと、家事・育児・介護がきちんとできなくなる」が多い回答で、いずれも男性より女性の方が高い割合となった。

反対の理由としては、「仕事を持っていても家事・育児・介護は協力してすべき」が最多で7割以上となっている。

男性も女性も仕事を持ち、家事や育児等は協力してすべきという男

女共同参画の考えが浸透している一方で、家事や育児等は女性の仕事で、女性の方がむいているという性別による役割分担の意識も残っており、女性が就労した場合、家庭での女性の負担感や職場での男女の不平等感があることが推測される。

こうした認識が女性の社会進出を阻む一因となっている可能性があることから、性別にかかわらず仕事や家庭に参画できるよう、意識の啓発とサポート体制の充実を図る必要がある。

【問5】について

「男らしさ」、「女らしさ」よりも「その人らしさ」を尊重するという考えが社会に浸透しているか尋ねた設問では、「浸透しているとは言えない」と回答した人が過半数となっており、まだまだ社会には、性別による役割分担の意識や現状が根強く残っていることが伺える。

役割分担による負担感の解消や多様性の尊重に向けて、性別にとらわれない考えを啓発していく必要がある。

【問6】について

社会の中で男女平等になっていないと思うことについて尋ねた設問では、「家庭」、「職場」、「慣習やしきたり」が多い回答となった。「家庭」と回答した人は、61.2%で、前回調査と比較すると、2倍近く増加しており、男女別に見ると、女性が男性より13.7ポイント高い割合となっている。

これまで、女性が家事や育児をするのがあたりまえとされてきた意識から、男性もするべきという意識の高まりにより、「家庭」において男女平等になっていないと思う人が増えていることが推測される。「家庭」と合わせて、「職場」や「慣習やしきたり」においても性別による不平等をなくしていく取組が必要である。

【問7】について

政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やす時の障壁（さまたげ）となるものについて尋ねた設問では、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が高い割合となった。また、「長時間労働の改善が十分ではないこと」も約4割の人が挙げており、リーダーという責任のある立場を担う場合、仕事と家庭の両立が難しいと感

じている人が多いことが伺える。

また、「女性自身がリーダーになることを希望しない」と回答した人は35.2%で、前回調査より13ポイント高くなっている。女性が家庭において担う役割の多さが、女性自身のリーダーとなる意欲や自信の低下に影響していることも考えられるため、家事・育児支援や労働環境の改善が求められる。

【問8】【問9】について

「仕事」と「個人や家庭の生活」とのバランス（ワーク・ライフ・バランス）についての希望と現実を調査する設問であり、【問8】では希望について、【問9】では現実について尋ねている。

希望を見ると、「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立したい」と回答した人が最多で61.3%であるのに対し、現実を見ると、「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立している」と回答した人は33.2%と半減している。

年代別に見ると、10代～40代は、現実として「仕事」を優先している人の割合が高く、50代以降は「個人や家庭の生活」を優先している人の割合が高くなっている。子育てがひと段落し自分の時間を持てるようになる年代は、個人や家庭を優先していることが伺える。「仕事」と「個人や家庭の生活」を両立したくても現実には出来ていない状況が浮き彫りとなっており、ワーク・ライフ・バランスを推進するうえで、より一層の家事・育児支援と職場環境の改善が求められている。

【問10】について

男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要と思うことについて尋ねた設問では、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」と「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が多い回答となっており、いずれも50%を超えている。

男性が家事・育児をしたくても日常的な残業や休暇が取りづらい状況など、職場の体制が整っていない状況も伺え、男女の役割分担に対する社会全体の意識の変革と合わせて、男性の労働環境の改善や制度の普及が求められている。

【問11-1、問11-2、問11-3、問11-4】について

セクシュアル・ハラスメントについて、本人及び身近な人の被害の有無と相談状況について調査した。セクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」と回答した人は、12.9%で、前回調査より2.7ポイント増加した。

年代別で見ると、40代が最多で27.7%となっている。また、身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいると回答した人は19.3%で、こちらも前回調査より増加している。

セクシュアル・ハラスメントを受けた際、誰かに相談したか尋ねた設問では、「相談していない」が最多で、53.1%となっている。相談しなかった理由としては、57.7%の人が「相談しても無駄だと思った」と回答しており、自分で抱え込み、泣き寝入りしているケースが多いと推測される。公共施設に加えて企業等へも相談窓口の周知を強化し、相談しやすい体制づくりを図っていく必要がある。

【問12-1、問12-2、問12-3、問12-4】について

ドメスティック・バイオレンスについて、本人及び身近な人の被害の有無と相談状況について調査した。ドメスティック・バイオレンスを「受けたことがある」と回答した人は、9.4%で前回調査よりわずかに減少したが、横ばいの状況となっている。身近にドメスティック・バイオレンスを受けた人がいると回答した人は16.3%で、こちらは前回調査より1.1ポイント減少している。

ドメスティック・バイオレンスを受けた際、誰かに相談したか尋ねた設問では、「相談していない」が最多で、41.7%となっている。相談しなかった理由としては、35.5%の人が「相談しても無駄だと思った」と回答しており、「相談するほどの事でもないと思った」、「自分が我慢すれば、なんとかやっていけると思った」の回答も多い割合となっている。また、ドメスティック・バイオレンスを受けたことがあると回答した男性が4.4%となっており、そのうち約3割の人が「どこに相談してよいかわからない」と回答している。ドメスティック・バイオレンスは、エスカレートすると命に関わることもあるため、関係機関と連携し、迷わず相談できる体制づくりと男性に向けた相談窓口の周知もしていく必要がある。

【問13-1、問13-2】について

今後、女性の社会参画を進めていくことが必要だと思うか尋ねた設問

では、「必要」と回答した人が 86.6%で、前回調査より 6.8 ポイント増加しており、市民意識として女性の社会参画の必要性が定着してきていることが伺える。

女性の社会参画を進めるうえで必要と思うものとして、「子育て環境の充実」、「育児・介護休業、再雇用制度など法制度の充実」、「男性の理解と意識の向上」が多い回答となっており、女性の社会参画を進めるために、社会的な制度や環境の充実と合わせて、一人ひとりの意識の見直しや向上を図る取組が必要である。

また、「政治分野」や「防災・災害分野」への女性参画については低い割合となっているため、あらゆる分野において、女性参画の必要性を高めていくための啓発が必要である。

3 総括

今回の市民意識調査の結果から、男女共同参画という考えは市民に広まってきており、必要性も高まってきていることが伺えるが、現実では家庭や職場等において、固定的な性別役割の考えや平等となっていない場面が未だ見受けられる状況であることが浮き彫りとなった。

背景として、働く女性の増加など女性の社会進出が進む一方で、家事、育児、介護など、家庭における女性の負担は減少しておらず、仕事と家庭の両立の実現に向けた環境整備や支援が進んでいないことが伺える。

これらの意識や現状が、女性のキャリアアップや男性の家事・育児参画を阻んでいる要因となっていることから、家庭や地域、企業などに向け、あらゆる機会をとらえ、男女共同参画社会への理解と意識の向上を図る啓発を行うとともに、男女が共に働きやすい環境の整備やワーク・ライフ・バランスの充実を図る取組を一層進めていく必要がある。

最後に、この「男女共同参画に関する市民意識調査」にご協力いただいた市民の皆様と設問の検討および結果の分析に携わった委員各位に深く感謝申し上げますとともに、この調査結果を踏まえ、男女が互いに尊重し合い、活躍できるまちづくりに向けて、男女共同参画の更なる推進に努めて行くこととし、総括とする。

IV 自由記載欄の意見など

- ・ 女性の職場での管理職への拒否等、逆に仕事が回らなくなり、男女の差別だと思うが仕事のできる人、意欲のある人が男女関係なく参加すべきで、女性がどうかは意味がない。逆に市としての活動があった事が知らなかったので、会議の中だけで終了せず、積極的に企業に促すべき。住みよい街づくりを願う。(男性・40代)
- ・ 同性カップル、夫婦の住みやすい街にしてほしいです。(女性・20代)
- ・ 人権問題は当事者にならないと真の苦しみや辛さは理解できないと思います。人間(人)として、どんな差別も許されないとします。差別をしてはダメです。差別を解消する為の法律もありますが、存在や内容までは知らない事が多いです。知識が無いから差別につながるの、学校等で教える事も大事な事だと思います。全ての人が安心して生活できる世の中になってほしいと思います。(女性・60代)
- ・ 女性の人権について。結婚して、出産するのは必ず女性。仕事もプライベートも充実させたいし、どちらも本気で取り組みたい。しかし産休育休を取れば私の会社では正社員に戻らない限り、同じ部署には戻れない。役職を落とされる。必ず何か妥協しなくては行けなく、これが原因で子どもを作らない選択をしている人は周りにたくさんいます。女性だから何かあきらめなくては行けない社会でなく、理解がえられるようになり、助け合いが生まれる社会になっていくことを望みます。(女性・20代)
- ・ 女性、男性、障がいなど。日本人が希望する仕事や学びをすぐできる世の中になればいいと思います。(女性・40代)
- ・ 男なんだから女なんだからじゃなくて、その人ができることできないことを尊重すればいいのではないかと思います。(女性・10代)
- ・ 男女共同参画については、男性が優位になっていることも多く、法律があっても利用しづらい環境にあると思うので、社会全体で環境を整えて利用しやすいようになればいいと思います。(女性・20代)
- ・ 男女平等は大切だと思うが根本的に体が違うから役割も違うので完璧に平等にするのもどうかと思う。現に女性の所得が増えれば結婚しない女性も増え、少子化が進むとの意見もあって非常にデリケートで難しい問題だとアンケートに答えていて思わされた。(男性・30代)
- ・ 私が思うに、「平等な社会」とは性別・障がいの有無関係なく、本当に才能のある人間が輝ける社会だと思う。新発田市にもそのような社会を目指して欲しい。(選択しない・不明)
- ・ SNSの悪口などの取り締まりを強化してほしいです。(男性・10代)

- ・ 自分をもっとこうあって欲しい、こうなりたいと思っても、相手や社会に受け入れてもらわなければ始まりません。世の中には、我慢している女性達がまだまだ沢山いると思います。(女性・40代)
- ・ それぞれの人達に対して差別なく尊重し尊厳することが大切だと思う。そうゆう社会になればいいと願う。(女性・50代)
- ・ いろいろな問題点があるかと思いますが、以下の様な事を今後進めていけば良いかな？と考えています。男女平等の件については、会社が男女平等になりやすい環境を作る。特に零細企業については有給休暇自体が無い会社が新発田や近隣市町に多く存在しています。そんな状態では育児や家庭の事などできないですね。ブラック企業といいますが調べてみてはどうでしょうか。部落差別については、新発田ではあまり関心が無いように思います。関東や関西の教育の事を思えば、おそらく児童や生徒に響かない教えですね。新発田の子どもたちや大人が他県や東京などで仕事をした場合、カルチャーショックを受ける要因の一つですね。改善されても良いかなと思います。(男性・50代)
- ・ 最近女性の差別がひどくなっていると思います。顔が汚いからとか美しくないからって差別する人はたくさんいます。とくに男性はあからさまに顔をみただけで差別する人がいます。ネットの記事で外人の女性が自分の顔に自信がなくてひどい差別されて、その女性は「少し優しい配慮ができないのでしょうか、顔が美しくないからって。」と言ってました。私も同感だと思います。美しくないから見た目が汚いからと差別していいなんてわけがありません。みんな同じ人間です。自分も差別されていじめられたり、いやがらせ、DVなどされたらどうですか？気分が悪いですよ。今の男性ってこういうことも考えない人がたくさんいます。(女性・40代)
- ・ 新発田市も差別のない基本的人権が尊重される社会及び男女が個性と能力を発揮できる環境を作ってください。新発田市の若い人が都会に働きに行かなくても新発田市で働ける所を多く作ってください。(男性・70代以上)
- ・ 全ての人が自分らしく生きていけることが何より大切だと思います。(女性・20代)
- ・ 職場の上司の古い考えが人権問題の弊害となっている。もっともっと新しいこと、新しい考えが必要。また、それには学ぶことが必要不可欠。上司の学ぶ場が必要。頑固な上司が新発田市を悪くする。(男性・20代)
- ・ 聞いたことがなかったり内容まで知らなかったりする法律が多いと感じました。また、人権問題は一部の人が知っていても意味がないと思うので、もっと学ぶ機会を増やした方が良かったと思います。心や体にゆとりがあれば、自分の時間をしっかりもって、他人を傷付けようとする気持ちは生まれないのではないかと考えます。今、「働き方改革」という言葉を多く耳にするようになっていますが、言葉で終わらせるのではなく、行動として目に見えるようになってほしいです。(女性・10代)
- ・ 「みんな違ってみんないい」という風になればいいのですが、それがとても難しい。次世代が大事ならば、子育てを充実していくといいと思うが、子どもの考えを無視した親中心のものは子育て支援ではないと思う。子どもが安心してすくすく育っていくことで親も安定していくことで、この先の人権問題のいくつかは解消していくと思う(時間がかかると思う)。目先の政策より丁寧に丁寧に

コツコツ変えていく必要があると思います。(女性・50代)

- ・ 日本は遅れています。目上と目下の関係。上から目線が何と多い事か。(女性・70代以上)
- ・ 既に男女での給料格差はほぼないと考えている。それでも女性の収入が低いとされているのは、生物学的な問題と考えている。生殖という大切なことを為すのに負担がかかるのが女性だからだ。全ての人が個人の人生を歩むためには、何が負担で何が必要なのか考える必要があると思う。これは人口減少の問題に関わっていると考えられる。育児の負担をフィンランドのようにいくら減らしても、人口は減る。女性が社会参画する度に人口は減るのだろうと思う。個人の意思を尊重するためには、このことを解決する必要があるだろう。(男性・10代)
- ・ 新しい課題(〇〇ハラ)などを見つけることも大事ですが、長くある問題について一つ一つみなが考えることも重要であるように感じました。(男性・10代)
- ・ コロナについて。ワクチンを接種していないと決めている人もいる。ワクチン接種していない事がわかり差別を受けている人もいることを知ってほしい。障がいがある人について。障がい=病気・闘病している人も含められるのでしょうか?あまり認知されていないような病気や症状に対して医者から差別的な発言・態度があります。また、闘病している人についても人権を考えてほしい。疑問点。同性同士で結婚生活している人もいると思う。問10の質問は、「男性が」「女性が」の他にも同性同士をつけたしてもいいのではないかと思う。LGBTQについての質問項目がなくて残念。宗教についての人権項目があってもいいのでは?差別しているのを見たり、うわさ、良く思っていない発言を本人の前でするなど見た事があります。(選択しない・30代)
- ・ 人権問題は数年前から呼ばれているが、全然改善が見られない。人権問題を解消するためには市民一人一人が人権問題を自分に関係のあることだと捉え、意識する必要があるが、実際は関心のない人が大半であるため、まず人権問題を自分のことである考え方になるように取り組みをしていく必要があると思う。(選択しない・20代)
- ・ 社会人は制度が充実しても仕事中心の社会なので、何も変わらない。休業制度などとれない。子どもに対する制度はもっと充実すべき。困っている子どもが助けられるように。(選択しない・不明)
- ・ もっともっと個人として関心高め、友人らと話し合い意識を高めるべきだと反省しました。(男性・70代以上)
- ・ 人権を大切に世の中であれば、もっともっと身近な人も他人にもあたたかいまなざしを向けられるはずなのに。人を間違えたものさしではかって、悪く言って楽しいという人はたくさんいて、自分の保身のために他の立場が弱い人をさげすんだり居場所を奪ったりする。そういう人たちは、自分が間違っているなんて絶対思わない。自分がどうしようもなく弱い立場にならなければ気付かないのだろうか。どうしたら気付いてもらえるだろう。やはり、知ることしかないのだろう。様々な問題をわかりやすく知る機会が必要だ。(女性・30代)
- ・ 市として取り組みをされていると思いますが、私にはわかりません。IT時代の今、市もネットなど

を上手に使い啓発活動をしていってもらいたいです。(男性・30代)

- ・ 政治家など、社会的に影響をもつ人が、人権意識を欠いていると思われる場面が散見されるが、そういった姿が少数派となり社会全体が互いを尊重しあえるような社会をつくることが求められていると考えるので、市町村など自治体の役割の大きさが今後人権問題に深く関わるはずだ。教育や啓発活動は、人権問題の発展的解決に向けて活動の継続を求めたい。(男性・20代)
- ・ どんな人にも優しい社会になることを希望します。男・女・外国人 etc... (男性・60代)
- ・ ジェンダー、LGBTQ 問題で中高生の制服着用で女子はスカートではなく、選べるようにして欲しい。(取り組んでいる学校もあると思うが) 新発田市にある中学校、高校全てで。(女性・30代)
- ・ 真剣に考え、アンケートに答えました。みなさんのアンケートを見て、市はどのように動いてくれるのか、目に見える形で動いてほしいです。アンケートに答えても何も変わらないのであれば、何もアンケートに答える必要はないと思います。少しでもすべての人がより良い暮らしができる様に動いて頂きたいです。(女性・50代)
- ・ 男女共同参画を進めるための法律など、内容を知らないことが多いと思いました。もっと関心を持って、どのような法律なのか知る必要があると思いました。また、人権問題について鈍感だったのではと感じました。もし、身近な人から相談を受けたとき、相談窓口等助言できる知識を持っていないのに気づきました。(女性・60代)
- ・ 子どもや子育て世代を大切にしていけることが重要だと思います。(男性・20代)
- ・ 不妊治療をしている女性に対しての仕事に関するのですが、まだまだ周りの方々の考えが無いと思います。子どもを望んで辛い治療、高額医療費、精神的にも辛い事を頑張っている人がいます。仕事への負担をかけているという気持ち、上司の不満な態度、心ない言葉。迷惑をかけているというのは本人が一番わかっています。もう少し不妊に対する理解を社会や企業も知ってほしいです。(女性・30代)

新発田市男女共同参画審議会

委 員	選出区分
大堀 正幸	1号委員 学識経験を有する者
金山 愛子	1号委員 学識経験を有する者
丸山 久志	1号委員 学識経験を有する者
加藤 康弘	2号委員 関係団体を代表する者
中野 牧子	2号委員 関係団体を代表する者
芹野 暁子	2号委員 関係団体を代表する者
梅田 昌己	2号委員 関係団体を代表する者
大川原 さとみ	2号委員 関係団体を代表する者
藤間 悦子	3号委員 その他市長が適当と認める者
杉崎 弘周	3号委員 その他市長が適当と認める者

新発田市男女共同参画審議会部会（市民意識調査結果の検討）

委 員	所 属
田中 利光	敬和学園大学人文学部教授
大堀 正幸	新発田市男女共同参画審議会委員
丸山 久志	新発田市男女共同参画審議会委員
芹野 暁子	新発田市男女共同参画審議会委員
藤間 悦子	新発田市男女共同参画審議会委員

男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書

発行 2023年3月

編集 新発田市

新発田市中央町3丁目3番3号

電話0254（28）9630